

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第355集

なかわだ

中和田遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に伴う緊急発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団

埋蔵文化財センター

なか わ だ

中和田遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に伴う緊急発掘調査

序

岩手県には、旧石器時代の遺跡を初めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成10年度現在で10,278ヶ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私たち県民の課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に関連して平成11年度に発掘調査を実施した中和田遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。調査によって、縄文時代前期初頭の堅穴住居跡・縄文時代後期の遺物包含層などが確認され、貴重な資料を提供することができました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力賜りました大船渡地方振興局土木部、住田町教育委員会をはじめとする多くの関係機関関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成13年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 千葉 浩一

例　　言

- 1 本報告書は、気仙郡住田町上有住字中和田2番地1ほかに所在する中和田遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に伴う緊急発掘調査である。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号および調査略号は以下のとおりである。

遺跡番号………MF 96-2268
調査略号………NWD-99
- 4 発掘調査期間、調査担当者、調査面積は次の通りである。

調査期間　平成11年4月15日～6月15日
調査担当者　菊池 貴広・佐々木 進悦
調査面積　2,521m²
- 5 室内整理期間および室内整理担当者。

整理期間　平成11年11月1日～平成12年1月31日
整理担当者　菊池 貴広
- 6 本報告書の執筆・編集は菊池貴広が担当した。
- 7 遺物の鑑定にあたっては次の方々に依頼した。

石質鑑定：花崗岩研究会
- 8 発掘・整理・本報告書の作成にあたっては次の方々にご指導、ご協力を得た。(敬称略)

住田町教育委員会
- 9 調査成果はこれまでに、調査概要や調査略報に発表してきたが、本報告書の内容が優先するものである。
- 10 土層については「新版標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修1990)を参考にした。
- 11 本遺跡から出土した遺物および調査にかかる資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序
例言

【本文】

I. 調査に至る経過	2	(2) 遺構図面	7
II. 遺跡の位置と環境	2	(3) 図版について	7
1. 遺跡の位置	2	(4) 遺物の写真図版について	8
2. 地形と地質	2	(5) 凡例について	8
3. 遺跡の基本層序	2	IV. 調査結果	11
4. 周辺の遺跡	4	1. 壁穴住居跡・住居状遺構と出土遺物	11
III. 調査方法と室内整理	7	2. 土坑	16
1. 野外調査	7	3. 陥し穴状遺構	19
(1) グリッドの設定	7	4. 柱穴状ビット	21
(2) 粗掘りと遺構検出	7	5. 溝跡	21
(3) 遺構の精査と実測	7	6. 遺物包含層と出土遺物について	21
(4) 写真撮影について	7	V. 本遺跡の出土遺物	28
(5) 遺物の取り上げについて	7	(1) 土器・土製品	28
(6) 遺構名の付け方	7	(2) 石器	32
2. 室内整理	7	VI. まとめ	49
(1) 遺物の処理	7	参考文献	51

【図版】

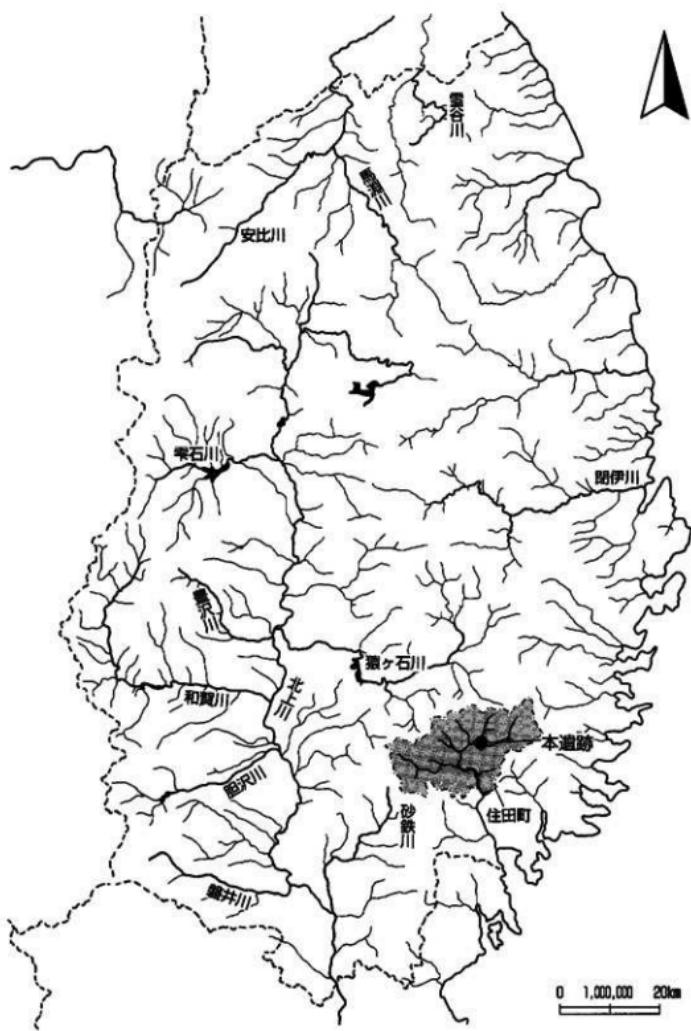
第1図 岩手県全図	1	第12図 土坑(2)・陥し穴状遺構(1)	18
第2図 遺跡周辺地形図	3	第13図 陥し穴状遺構(2)	20
第3図 遺跡土層柱状図	3	第14図 柱穴状ビット群・溝跡	22
第4図 周辺の遺跡分布図	5	第15図 遺物包含層範囲	24
第5図 遺跡位置図	6	第16図 遺物包含層断面(1)	25
第6図 凡例図	8	第17図 遺物包含層断面(2)	26
第7図 遺構配置図	9	第18図 遺物包含層出土量グラフ	27
第8図 1号壁穴住居跡(1)	12	第19図-21図 遺構内出土遺物	33
第9図 1号壁穴住居跡(2)	13	第21図-28図 遺物包含層出土遺物	35
第10図 1号壁穴住居跡(3)-1号住居状遺構(1)	14	第28図-30図 遺構外出土遺物	42
第11図 1号住居状遺構(2)・土坑(1)	17		

【表】

第1表 周辺の遺跡一覧	4	第2表 遺物観察表	45
-------------------	---	-----------------	----

【写真図版】

写真図版 1 空中写真	55	写真図版13 作業風景・遺物出土状況	67
写真図版 2 調査前風景	56	写真図版14 遺構 内 出土 土器(1)	68
写真図版 3 基本土層	57	写真図版15 遺構 内 出土 土器(2)	69
写真図版 4 1号竪穴住居跡(1)	58	写真図版16 遺物 包含層出土土器(1)	70
写真図版 5 1号竪穴住居跡(2)	59	写真図版17 遺物 包含層出土土器(3)	71
写真図版 6 1号住居状遺構	60	写真図版18 遺物 包含層出土土器(4)	72
写真図版 7 土坑・陥し穴状遺構(1)	61	写真図版19 遺物 包含層出土土器(5)	73
写真図版 8 陥し穴状遺構(2)	62	写真図版20 遺物 包含層出土土器(6)	74
写真図版 9 柱穴状ピット・遺跡全景	63	写真図版21 遺物 包含層出土土器(7)	75
写真図版10 1号溝	64	写真図版22 遺構外出土土器(2)・土製品	76
写真図版11 遺物 包含層断面	65	写真図版23 石器	77
写真図版12 遺跡遺構群	66	写真図版24 遺物 包含層下層出土 ケルミ・樹の実・木片	78



第1図 岩手県全図

I. 調査に至る経過

中和田遺跡は「一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業」の施工に伴って、その事業区域内に在することから発掘調査を実施することになったものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県大船渡地方振興局土木部から、平成10年8月6日付け大地土第809号で「新ネットワーク道路整備事業における埋蔵文化財包蔵地の範囲について」の文書で、岩手県教育委員会に分布調査を依頼した。岩手県教育委員会は平成10年9月16日(木)に調査し、その調査の結果を「平成10年9月21日付け教文第672号新交流ネットワーク道路整備事業における埋蔵文化財の分布調査について(回答)」により回答した。

岩手県大船渡地方振興局土木部はこれを受けて、平成10年10月6日付け大地土第1071号で「交流ネットワーク道路整備事業における埋蔵文化財の試掘調査について」の文書で、岩手県教育委員会に試掘調査を依頼した。岩手県教育委員会は平成10年11月13日(金)に試掘し、その調査の結果を「平成10年11月17日付け教文第871号新交流ネットワーク道路整備事業における埋蔵文化財の試掘調査について(回答)」により回答し、中和田遺跡の範囲内であることが付記された。

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

中和田遺跡は、上有住中学校から南東約1kmに位置し、北緯39度11分26秒 東経141度36分21秒にあたる。本遺跡の所在する住田町は、岩手県南東部の気仙郡の内陸部にあり、東側が大船渡市・釜石市、西側が江刺市・大東町、南側が陸前高田市、北側が遠野市の5市1町と隣接し、総面積は、335.95haである。

2. 地形と地質

本遺跡は気仙川右岸に形成された扇状地状の緩斜面に立地している。周辺は気仙川を境に北側・南側に標高600~800m未満の山地が連なっている。遺跡での標高は約180~188mで気仙川の比高は約5~10mほどである。当地域は中生代の花崗岩類、古生代の固結堆積物の輝綠凝灰岩・泥岩・石灰岩等を基盤層としている。

3. 遺跡の基本層序

本調査区の現況は畑地・水田である。調査区東側・西側において、耕作土の下面は、気仙川の氾濫・浸食によって砂層・砂疊層が形成されており、遺構・遺物の有無は確認されなかったが、調査区中央部において、遺構・遺物を確認した。基本土層は下記のとおりである。II層が存在しない場所もある(第7図遺構配置図拡大図東側参照)。

基本層序

I層 10YR 2/2 黒褐色土 シルト 粘性強 しまりやや密 (耕作土)

層厚 約30~50cm

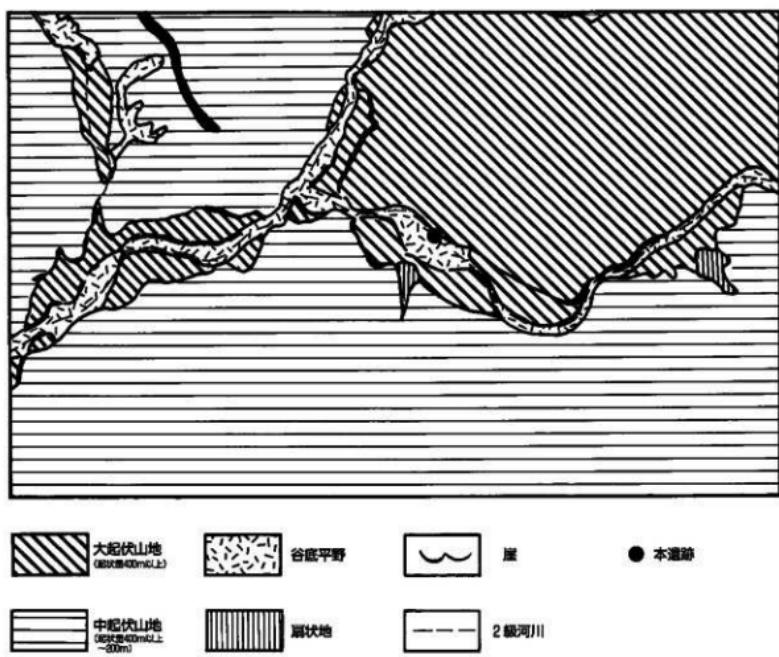
II層 10YR 5/6 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや密

層厚 約30~40cm

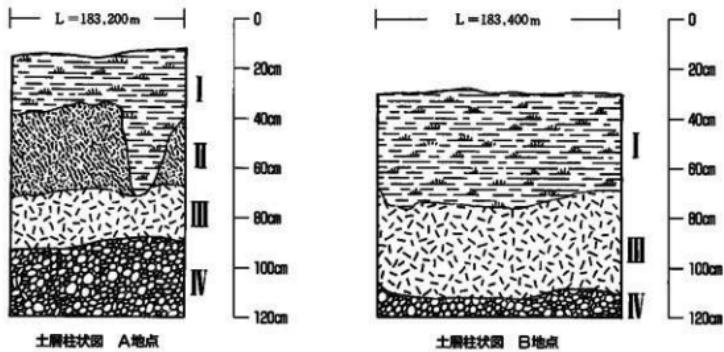
III層 10YR 4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり密 (径1~10cmの礫を含む)

層厚 約30~40cm

IV層 砂疊層 層厚不明



第2図 遺跡周辺地形図



第3図 遺跡土層柱状図

4. 周辺の遺跡

住田町内における遺跡数は平成8年4月現在で103ヶ所ほど確認されており、広田湾に注ぐ気仙川支流の中沢川・大股川・坂本川沿いに分布している。昭和39年(1964)に蛇王洞遺跡の調査が芹沢長介によって行われ、縄文時代早期中葉～末葉の土器、石器、獸骨、貝類等が出土している。昭和46年(1971)の住田町教育委員会による湧清水洞穴遺跡の調査では、縄文時代早期末葉の土器・後期の人骨27体、室町時代の人骨2体、貝輪、骨針等が出土している。平成2年(1990)には当センターによって川向遺跡が調査され、遺構は検出されなかったが、縄文時代晚期を主とした土器・石器が出土した。町内の発掘事例が少なく詳細は明らかでないが、縄文時代後期から晚期にかけての遺跡が半分以上を占めており、洞穴遺跡が5ヶ所、中世城館が10ヶ所を数える。また、平成12年度調査で、小松I・II遺跡において、縄文時代早期中～末・前期初頭の集落跡と弥生時代の竪穴住居跡を確認している。

(参考・引用文献)

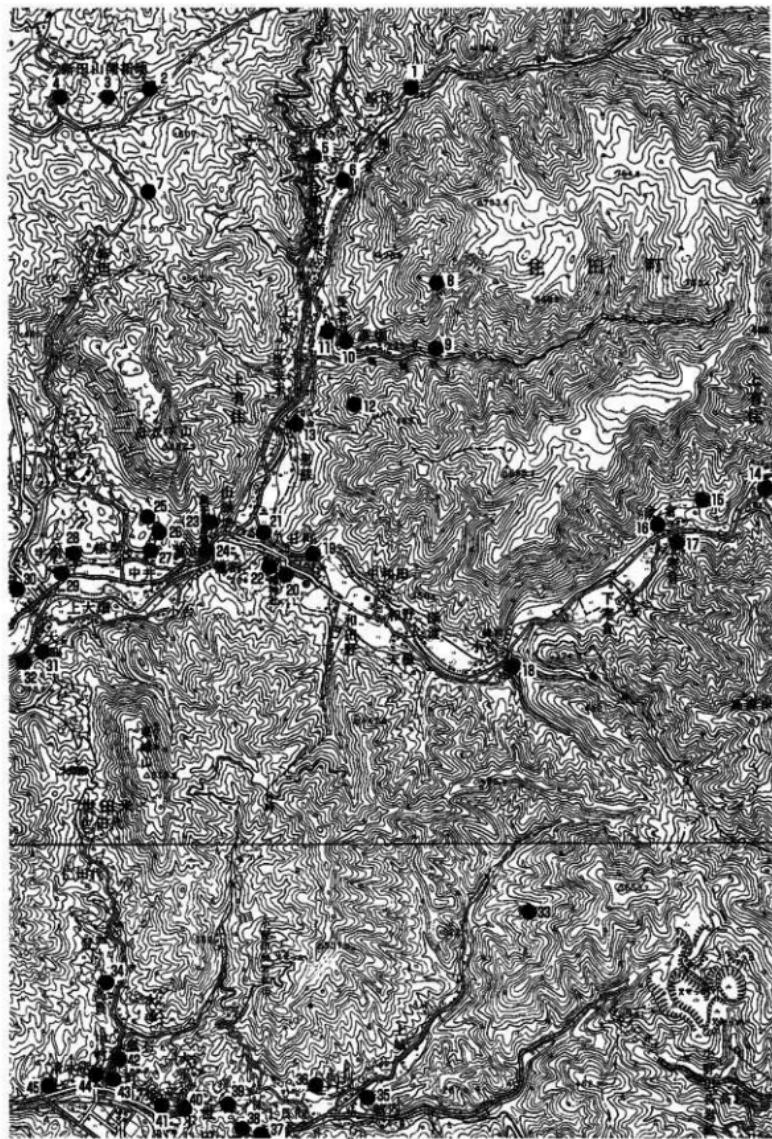
岩手県 1971 「北上山系開発地域土地分類基本調査 遠野」

岩手県住田町教育委員会 昭和48年 「湧清水洞穴遺跡」

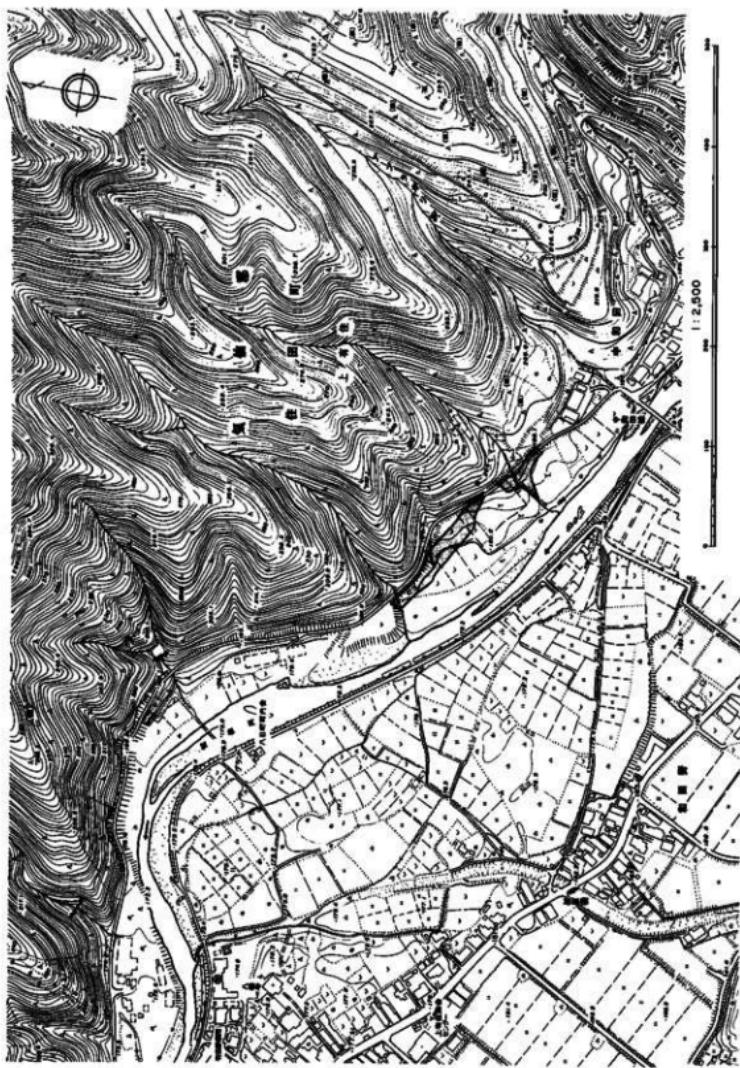
岩手裡文 1992 「川向遺跡発掘調査報告書」 文化財調査報告書第173集

第一表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	概要	時代	遺構・遺物
1	新作	散布地	平安	土印部
2	新田山	散布地	縄文	縄文土器(後期)
3	新田山	散布地	縄文	縄文土器(後期)
4	新田	散布地	縄文	縄文土器(後期)
5	上の平	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
6	五合	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
7	老の原	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
8	田山	散布地	?	?
9	黒畠	散布地	縄文	縄文土器(後期)
10	上家	散布地	縄文	縄文土器(後期)
11	長者	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
12	風石城	城跡	中期	戸形平場
13	相ノ口城	城跡	中期	聚落
14	中坪	散布地	縄文	縄文土器(後期)
15	大河	散布地	縄文	縄文土器(後期)
16	水原	散布地	縄文	縄文土器(後期)
17	上野	散布地	縄文	縄文土器(後期)
18	木松	洞穴	縄文	縄文土器(中・後期)
19	日吉	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
20	八日町	散布地	縄文	縄文土器(後期)
21	山腰	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
22	上野有作城(八幡城)	城跡	中期	郭・闘闘・堀
23	奥殿	散布地	?	?
24	魔王城	洞穴	縄文	縄文土器(中・後期)
25	中井	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)
26	沢田	散布地	縄文	縄文土器(後期)
27	田野山	散布地	縄文	縄文土器(後期)
28	海岸	城跡	中期	聚落
29	御岸	散布地	?	?
30	十文字下	散布地	?	?
31	菅の下	散布地	縄文	縄文土器(後期)
32	菅岩利	洞穴	縄文	縄文土器(後期)
33	湧清水洞穴	洞穴	縄文	縄文土器・散在土器
34	淨福寺	散布地	縄文	縄文土器(後期)
35	城内	散布地	縄文	縄文土器(中期)
36	実	散布地	縄文	縄文土器(後期)
37	上日向	散布地	縄文	縄文土器(後期・後期)
38	上根前	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)
39	中沢上根	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
40	小口	散布地	縄文	縄文土器
41	卦山	散布地	縄文	縄文土器(後・中期)
42	万歳寺	散布地	縄文	縄文土器
43	原城	城跡	中期	?
44	上船原城	城跡	中期	木丸・二ノ丸・城・櫓跡
45	赤畠	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)



第4図 周辺の遺跡分布図



■ 遺跡位置図

第5図 遺跡位置図

III. 調査方法と室内整理

1. 野外調査

(1) グリッドの設定

グリッドの設定にあたっては、平面直角座標の第X系に合わせた基準点を用いて、調査地の区割りを行った。グリッドの配置は以下の基1、基2の2点を基準とし、第X系の座標に重なるように主要な点を定め、遺跡全体を一辺20mの大グリッドと大グリッドを25等分した4mメッシュの小グリッドとに区割りした。このメッシュは北西端を基準に南北方向の北からI・II・III……の番号を付し、東西方向の西からA・B・C……アルファベットを付した。大グリッドは、IA・小グリッドはIA 1aというように呼称した。

基1 X=-89,580.000 Y=66,740.000 H=182.234

基2 X=-89,620.000 Y=66,780.000 H=181.068

(2) 粗掘りと遺構検出

人力によって約2m×2mのテストピットを13ヶ所設定し、土層・遺物の出土状況・検出面を確認し、重機による粗掘りを行った後、鍬籠・両刃鋸を用いて検出を行った。

(3) 遺構の精査と実測

検出された遺構は、堅穴住居跡・住居状遺構は4分法・土坑類については2分法で精査し、必要に応じて使い分けた。溝跡・柱穴状ピットは、平板測量で平面図を作成した。実測図の縮尺は1:20の縮尺を基本とし、平面図・断面図を作成した。

(4) 写真撮影について

写真撮影は、適宜調査前の調査区、遺構の完掘状況、遺構の断面、遺構の埋土、遺物の出土状況等遠近距離からの撮影を行なった。写真撮影は35mmモノクロームとカラースライド各1台そしてさらに6×7のモノクローム1台を使用した。また、調査終了間近に小型飛行機による空中撮影を実施した。

(5) 遺物の取り上げについて

遺構内の出土遺物については、埋土上位・中位・下位・床面に分けて取り上げた。遺物包含層・遺構外出土遺物については、調査区に設定したグリッド別に層位を記して取り上げた。

(6) 遺構名の付け方

検出された遺構の名付け方については、野外調査中に通し番号で検出順に付し、室内整理において、遺構の特徴・性格から名前を変更したもの、遺構と認定しなかったものもある。

2. 室内整理

(1) 遺物の処理

遺物は野外調査中に水洗し室内整理において注記を行い、必要なものについては接合・復元作業を実施した。これらの作業終了後、遺物の登録を行なった。遺物の登録後、実測・拓本・写真撮影・トレースの順に行い遺物図版を作成した。

(2) 遺構図面

野外調査で作成した実測図は必要なものについては第2原図を作成した。その後トレース・遺構図版作成の順に進めた。

(3) 圖版について

遺構図版は遺構の種別毎に掲載した。縮尺は住居跡・土坑・陥落穴状・柱穴状ピットは40分の1、溝跡60

分の1、遺物包含層断面50分の1とし、各図版内にはそれぞれスケールを付している。

また、遺物図版については、土器は3分の1、石器は3分の2とし、図版にはそれぞれスケールを付している。

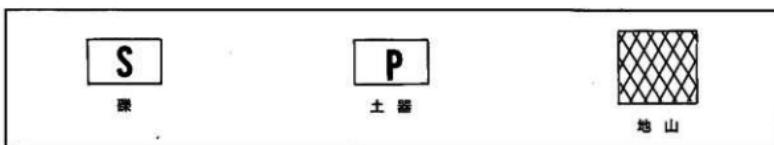
遺物図版については、遺構内・遺物包含層・遺構外の順番に掲載し、遺構内遺物については、原則として床面・埋土下位・中位・上位の順に、遺物包含層については、下層・上層の順に掲載し、下層・上層それぞれに文様・土器編年に基づき、遺構外出土遺物についても同様である。

(4) 遺物の写真図版について

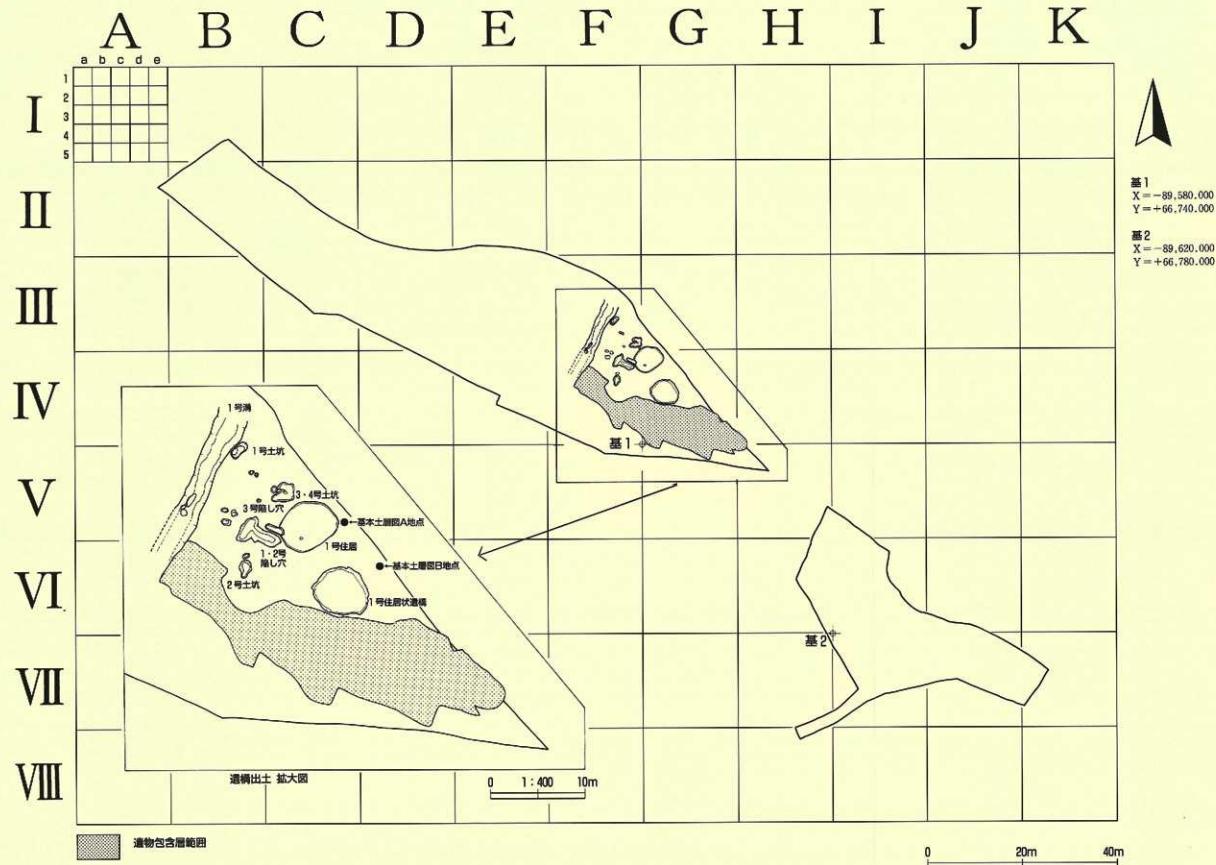
遺物の写真図版の縮尺は、土器は約3分の1・石器はほぼ原寸である。

(5) 凡例について

各図版の凡例については下記のとおりである。



第6回 凡 例 図



IV. 調査結果

調査の概要

今回の調査では調査区全体の土層・検出面を把握するために13ヶ所のテストピットを設定後、重機による粗掘・検出の結果、調査区東側・西側においては、表土を剥がすと砂・礫層の基盤層となっており、遺構・遺物は確認されなかった。調査区の中で比較的標高が高い中央部において遺構・遺物を確認した。I層の耕作土を除去した後、II層面において、竪穴住居跡・土坑・陥入穴等の遺構を確認した。また、III層面で住居状遺構・遺物包含層を確認した。遺物包含層については遺物取り上げ後、遺物の有無を再確認するため50~100cmまで掘り下げを進めたが、遺物は確認されなかった。

今回の調査で、確認された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1棟・住居状遺構1棟・土坑4基・陥入穴状遺構3基である。また、時代時期不明な遺構として柱穴状ピット8基、近代と思われる遺構として、溝跡一条が検出された。

1. 竪穴住居跡・住居状遺構と出土遺物

1号 竪穴住居跡（第8~10図・写真図版4~6）

遺構

（位置） IV G 1aグリッドに位置する。

（検出状況） I層（耕作土）を除去したのち、II層面で検出を行った結果、黒褐色土のプランとしてを確認した。

（精査状況） II層面に黒褐色土の梢円形のプランを確認した後、十字にベルトを設定し、II層が床・壁になると想定し、竪穴住居の埋土の掘り下げを進めた。その結果、床面と想定した面より、約10cm高いレベルで炉跡が確認された。炉跡を確認した面で床面の掘り下げをとどめたが、掘り下げ過ぎた部分もある。

炉跡精査後、柱穴を確認するために、床面・炉跡を更に下げる検出を行った結果、20基のピットを確認した。

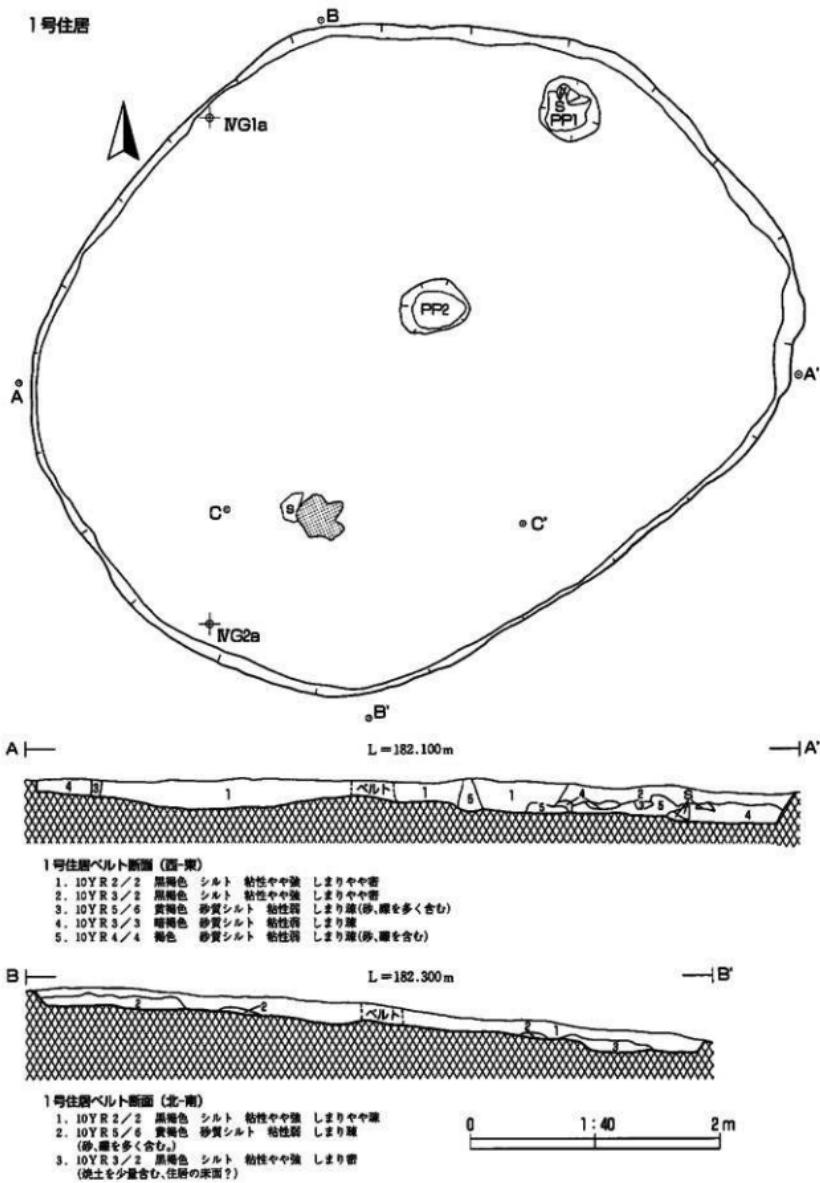
（規模・形状） 平面形は、梢円形を呈する。規模は、東西軸6.0m・南北軸5.3mである。

（埋土） 黒褐色土シルトを主体とし、下層は暗褐色土砂質シルトからなる。

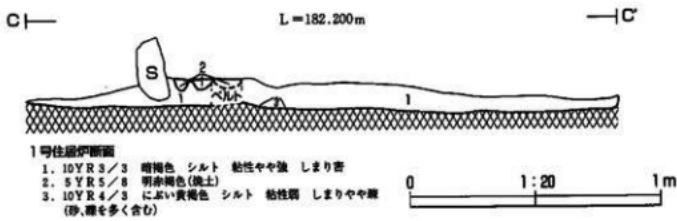
（壁・床） 壁・床は概ねII層面が相当するが、炉周辺部は暗褐色土のしまりのある土が床面となる。北東部の壁はIII層が相当する。床は若干の凹凸があり、北側から南側にやや傾斜する。貼り床は施されていない。壁はほぼ垂直に立ち上がる部分と、直立ぎみに外傾する部分がある。壁高は9.2cm~23.6cmである。壁は耕作時の造成や気仙川の氾濫等を受けて削平された可能性がある。

（炉跡） 住居の西側に位置する。礫が1つ焼土に接する部分に存在するが、炉に伴うものか明らかではない。炉の焼土は、厚さ5cmで形成されていた。焼成は良好でない。地床炉と思われる。

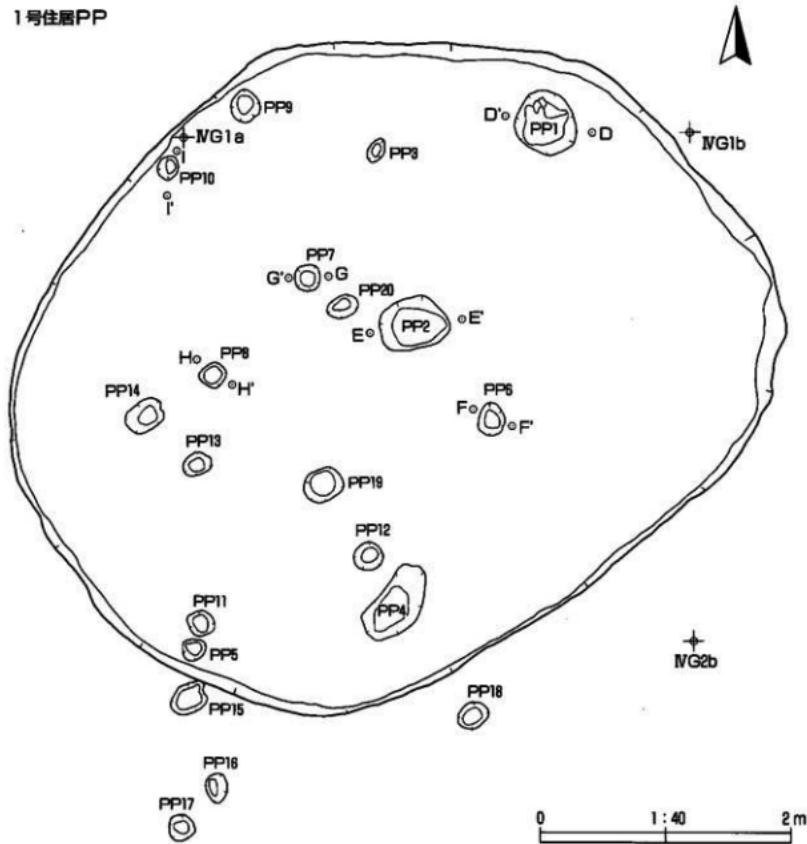
（柱穴） 20基の柱穴状ピットを確認した。埋土は黒褐色土の單層からなるものがほとんどで柱穴痕跡は認められなかった。規模・深さは次の表であらわした。焼土開口部径は約15~30cmの範囲、深さは約6~17cmの範囲に入る。



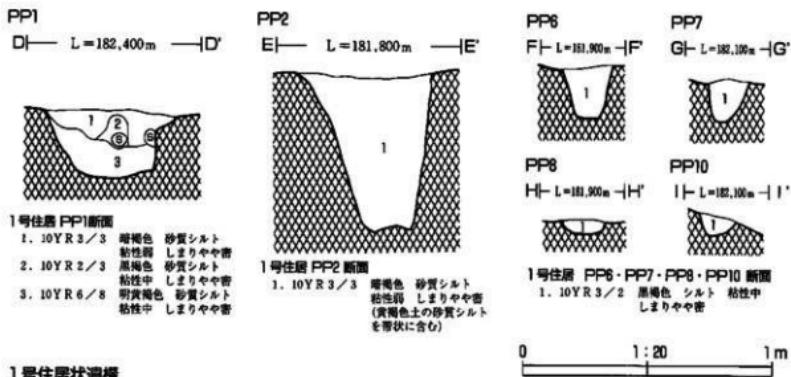
第8図 1号窓穴住居跡(1)



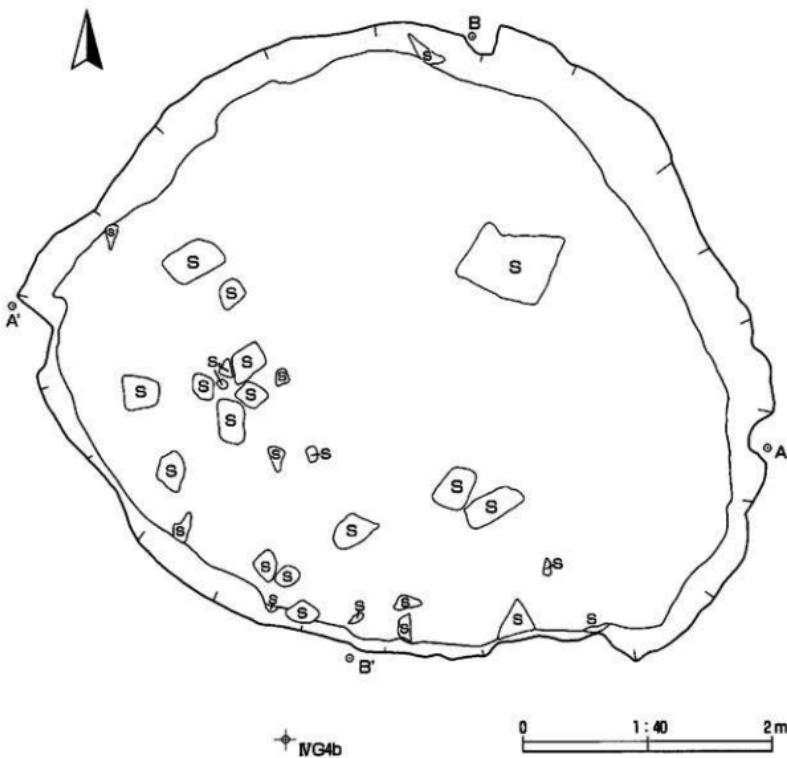
1号住居PP



第9図 1号堅穴住跡(2)



1号住居状造構



第10図 1号堅穴住居跡(3)・1号住居状造構(1)

番号	開口部径(cm)	深さ(cm)
PP 1	50×46	26
PP 2	55×40	60
PP 3	21×13	11
PP 4	70×37	13
PP 5	17×17	8
PP 6	26×21	15
PP 7	20×20	16.5
PP 8	22×20	8
PP 9	28×25	8
PP 10	26×15	7.5

番号	開口部径(cm)	深さ(cm)
PP 11	24×20	8
PP 12	25×23	13
PP 13	23×19	13
PP 14	16×15	8
PP 15	22×13	10
PP 16	23×18	14
PP 17	23×18	9
PP 18	25×20	16
PP 19	25×20	8
PP 20	20×13	11

遺物（第19図・写真図版14・23）

（出土状況） 埋土中位・下位に縄文時代後期の土器が6片出土しているが、埋土中位・床面において縄文時代前期初頭～前業土器が出土している。出土した土器の総重量は1,760gである。

（土器） 1～13は胎土に纖維を含む土器である。地文が組繩縄文が施される土器（1・4・10）、綴縄文が施される土器（9）、原体圧痕が施される土器（11・12）、尖底土器（13）が出土している。10は地文に組繩縄文、口唇部に指彫状圧痕が施される。14は縄文時代後期前業～中業の壺の口縁部と思われる。

（石器） 刺片石器2点、搔・削器が1点出土している。

（時期） 縄文時代前期初頭～前業の土器が床面から出土していることから、床面から出土した土器に相当する時代の遺構と考えられる。

1号住居状遺構

遺構（第10・11図・写真図版6）

（位置） IV G 3bグリッドに位置し、遺物包含層に接する。

（検出状況） I層（耕作土）を除去した後、III層面の検出を行った結果、黒褐色土のプランとしてを確認した。

（精査状況） プランを確認した後、十字にベルトを設定し、III層が床・壁になると想定し、竪穴住居跡埋土の掘り下げを進めた。

（規模・形状） 平面形は梢円形を呈する。規模は、南北軸5.75m・東西軸5.0mである。

（埋土） 埋土上半部は、黒褐色土のシルト層が占め、埋土下半部は暗褐色土のシルト層からなる。埋土下半部に中振火山灰と思われる粘土質のブロックが混入する。

（壁・床） 壁の傾きはやや外傾する。検出面からの壁高は北側が高く南側が低い。壁の高さは20～69cmである。床面は、IV層に相当し、若干の凹凸が見られ、北側から南側にやや傾斜する。

（柱穴） 検出されなかった。

遺物（第19・20図・写真図版14・15・23）

（出土状況） 埋土上位から縄文時代後期前業～中業の土器・弥生時代中期・後期の土器が出土し、包含層上層土器と接合した土器もあった（121）。埋土中位～下位に若干の縄文時代後期の土器が出土するが（2片）、ほとんどが胎土に纖維を含む縄文時代早期末～前期前業土器が出土した。出土した土器の総重量は5,630gである。

(土器) 15~35は胎土に纖維を含む土器である。纖維を含む土器の中で表裏縄文が施される土器(22~25・28)、組縄縄文が施される土器(30)、羽状縄文が施される土器(26~28)、補修孔を有する土器(31・34)、尖底土器(29)などがある。36・37の台付土器は縄文時代後期前葉~中葉の土器と思われる。38・39の壺形の土器は弥生時代中期に属する田舎館式土器に比定される土器と思われる。

(石器) 埋土下位から剥片石器が14点出土した。そのうち定型石器としては、石鎚・搔・削器類がそれぞれ1点出土している。

時期 埋土下位・床面から縄文時代早期末~前期前葉の土器が出土していることから、出土した土器に相当する時代の遺構と考えられる。

2. 土坑

1号土坑(第11図・写真図版7)

ⅢF 4dグリッドに位置する。検出面は、Ⅱ層面で検出された。開口部径2.0×0.9m、底部径1.55×0.75m、深さ0.3m、平面形は、小判形状を呈する。埋土は黒褐色の単層からなる。底面はⅡ層で底面南西側にピットを伴う。

遺物 埋土上位から縄文土器1片が出土している。

時期 時期を判断する遺物を欠き詳細は不明であるが、検出面・周辺の遺構・出土遺物から縄文時代の遺構と考えられる。

2号土坑(第11図・写真図版7)

ⅣF 2dグリッドに位置する。検出面は、Ⅱ層面で検出された。開口部径1.9×1.2m、底部径1.5×0.95m、深さ0.3m、平面形は、南側が張り出す不整な楕円形、断面径は皿状を呈する。埋土は粘土質の褐色土の単層からなる。底面は、Ⅲ層では平坦である。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面・周辺の遺構・出土遺物から縄文時代の遺構と考えられる。

3号土坑(第12図・写真図版7)、遺物(第20・21図・写真図版15・23)

ⅤF 4eグリッド・1号堅穴住居跡北西側に位置する。検出面は、Ⅱ層面で検出された。開口部径2.4×1.0m、底部径2.0×1.0m、深さ0.3~0.5m、平面形は、舌状、断面形は筒形状を呈する。埋土上半部は、暗褐色土・埋土下半部は黄褐色土・黒褐色土からなる。自然堆積と思われる。底面はⅢ層で若干の凹凸が見られる。

遺物 胎土に纖維を含む土器で捲糸文・単節・複節・羽状縄文が施される土器である(40~45)。石器は剥片石器が18点出土した。そのうち、定型石器としては石匙が2点・搔・削器類が1点出土している。出土した遺物の総重量は1,910gである。

時期 出土遺物から縄文時代前期初頭~前葉の土坑と考えられる。

4号土坑(第12図・写真図版7)

ⅤF 4eグリッド・1号堅穴住居跡北西側に位置する。検出面はⅡ層面で検出された。開口部径2.4×1.0m、底部径2.0×1.0m、深さ0.3~0.5m、平面形は、舌状、断面形は筒形状を呈する。埋土は、調査時の不手際で完掘したため、詳細は不明であるが3号土坑と類似する。底面は、Ⅲ層で若干の凹凸が見られる。

遺物 繊維を含む土器が1点出土した。

時期 出土遺物・埋土・形状が3号土坑と類似する事から縄文時代前期初頭~前葉の土坑と考えられる。

A | —

L = 181.600 m

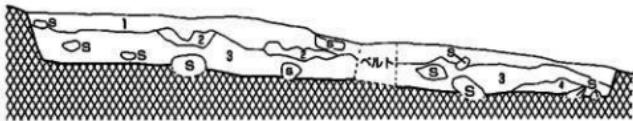
—| A'



B | —

L = 182.000 m

—| B'



A

1号土坑

A'

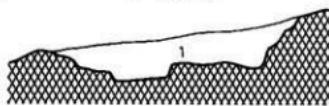
2号土坑

B

A | —

L = 182.600 m

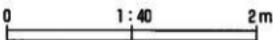
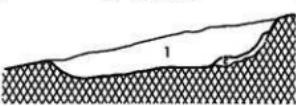
—| A'



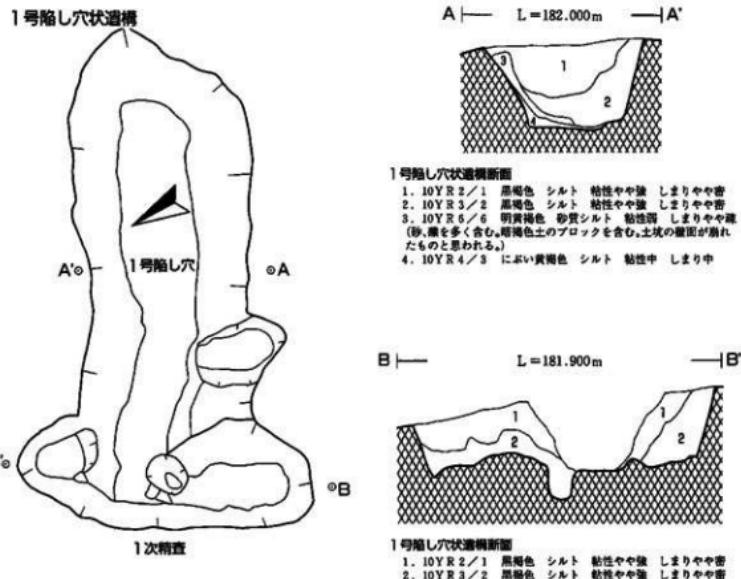
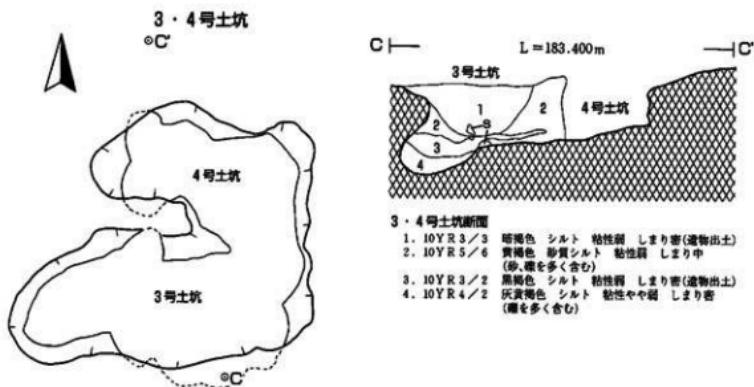
B | —

L = 181.400 m

—| B'



第11図 1号住居状造構(2)・土坑(1)



0 1:40 2m

第12図 土坑(2)・陥し穴状遺構(1)

3. 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構（第12・13図・写真図版7・8）、遺物（第21図・写真図版15）

（位置） IV F 1d・IV F 1eグリッドに位置する。1号竪穴住居跡南西側に隣接する。

（検出状況・重複関係） I層（耕作土）除去した後、II層面で検出を行い、T字状の黒色土のプランとして確認した。2号陥し穴状遺構・1号竪穴住居跡と重複する。埋土・出土遺物に明確な相違が認められず、平面形のみで判断すると2号陥し穴状遺構より古い遺構と推定される。また、1号竪穴住居跡より新しい。

（規模・形状・底面） 開口部長軸4.0m、短軸1.2m、底部長軸(3.5m)、短軸0.6m、深さ0.69mである。断面の形状は、壁がやや外傾する逆台形状を呈する。底面は、III層ではほぼ平坦である。

（埋土） 埋土上半が黒色土・埋土下半が黒褐色土からなる。自然堆積と思われる。

（出土遺物） 埋土上位から土器がまとまって出土した。埋土上位の土器は縄文時代後期前業～中業と思われる粗製の深鉢（49・50）、縄文時代後期中業と思われる波状口縁の口縁部（48）、弥生時代後期に属する甕の口縁部・頸部（46・47）が出土した。埋土下位から繊維を含む土器が1点出土している（51）。出土した遺物の総重量は2,550gである。

（時期） 埋土下位から繊維を含む縄文時代前期初頭～前業の土器が1点出土しているが、流れ込みと思われる。出土遺物から縄文時代に属する遺構と考えられる。

2号陥し穴状遺構 遺構（第13図・写真図版7・8）

（位置） IV F 1d・IV F 1eグリッドに位置する。1号竪穴住居跡南西側に隣接する。

（検出状況・重複関係） I層（耕作土）除去した後、II層上面で検出を行い、T字状の黒色土のプランとして確認した。1号陥し穴状遺構と重複する。埋土の状況・出土遺物に明確な相違が認められなかつたが、平面形から1号陥し穴状遺構より新しいと推測する。

（ sondage 状況） 黒色土のプランを順りに、掘り下げを進めていった。完掘して写真撮影・図面作成を行った後（一次精査）、更にプランが西側に広がることが確認されたので、再度写真撮影・図面作成を行つた（二次精査）。

（規模・形状・底面） 開口部径3.14×1.5m、底部径2.6×0.8m、深さ0.6mである。断面の形状は、壁がやや外傾する逆台形状を呈する。底面はIII層で小ピットを伴う。

（埋土） 埋土上半が黒色土・埋土下半が黒褐色土からなる。

（出土遺物） 繊維を含む土器が8片出土しているが、流れ込みと考えられる。

（時期） 縄文時代の遺構と考えられる。

3号陥し穴状遺構（第13図・写真図版8）

（位置） IV G 5eグリッド・1号竪穴住居跡西側に位置する。

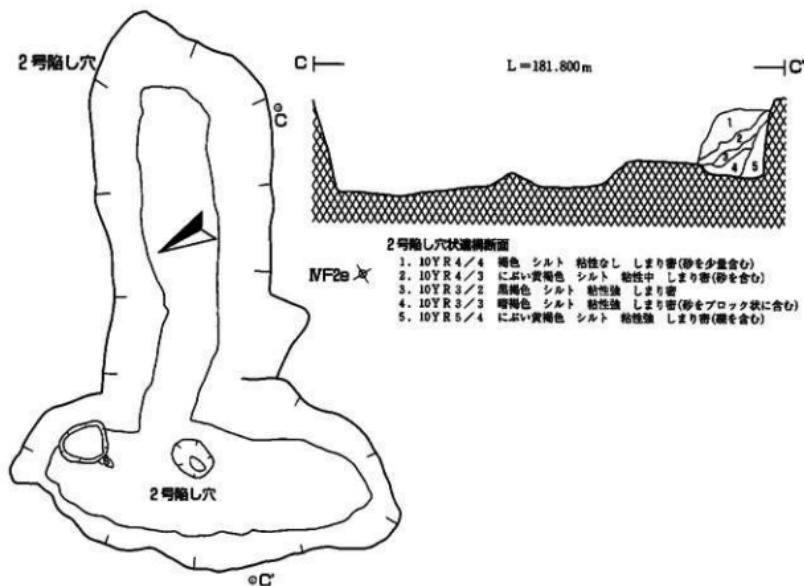
（検出状況・重複関係） I層（耕作土）除去した後、II層面で検出を行つた。暗褐色土のプランとして確認した。1号竪穴住居跡と重複し、1号竪穴住居跡より新しい。

（規模・形状・底面） 開口部径2.08×0.58m、底部径1.94×0.6m、深さ0.74mである。断面の形状は、筒形を呈する。底面は、IV層ではほぼ平坦である。

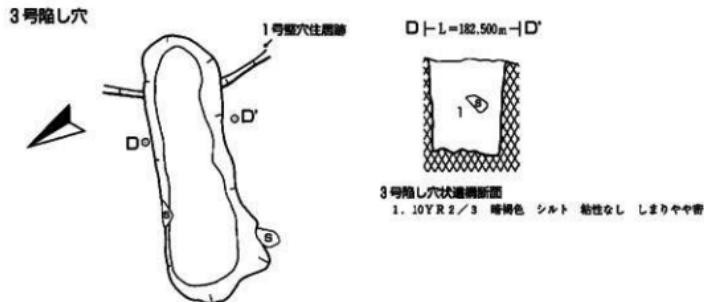
（埋土） 暗褐色土の単層からなる。

（出土遺物） なし

（時期） 出土遺物がなく詳細は不明であるが、周辺の遺構との関係から縄文時代の遺構と考えられる。



2次精査



0 1:40 2m

第13図 陷し穴状遺構(2)

4. 柱穴状ピット（第14図）・写真図版（9）

柱穴状ピットは、8基確認された。検出面は、II層上面である。埋土はほとんど単層からなり、柱痕が認められず、掘立柱建物跡を構成するものではなかった。時代時期については不明である。

規模については、第14図に表として掲載した。

5. 溝跡

1号溝跡（第14図）・写真図版（10）、遺物（第21図）・写真図版（15・23）

（位置） III Fグリッドに位置する。

（検出状況） I層（耕作土）除去した後、II層面の検出を行った後、黒褐色土のプランとして確認した。

（規模） 上端径3.34m×2.15m、下端径1.6m×0.94m、深さ109cm～84cm。

（断面形・埋土・底面） 形状は、逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土を主体とする。底面は、IV層ではほぼ平坦である。底面には残存状況は良好ではないが、木製の土管が設置されていた。

（遺物） 縄文時代後期中葉に属する土器（54）、石器（9）が出土。

（時期・性格） 底面に木製の土管が確認されたことから、近代の遺構と考えられる。北から南に流れ込む農業用の用水路の可能性が考えられるだろう。

6. 遺物包含層と出土遺物について（第15～18図）・遺物（第21～28図）

1. 位置・検出状況 調査区中央部南側に位置する。I層（耕作土）除去後、III層で検出を行った後、東西方向に延びる黒色土の溝状のプランとして確認した。

2. 調査の過程

溝状の黒色土プランから土器片が各地点から出土し、溝状プランに直交するように試掘溝を設定し、出土遺物の層位を確認した。層位を確認したところ、IVG 5a・5b・VG 1eグリッドにおいて、二つの層（上層・下層）から出土することを確認した。遺物は上層・下層に分けて遺物を取り上げながら掘り下げを進めていった。遺物包含層の掘り下げ終了後、再度遺物の有無を確認するため、包含層最終面から掘り下げを進めたが遺物は確認出来なかった。

（遺物の出土状況）

試掘の結果第16・17図A-A'・B-B'・C-C'・D-D'の断面1層からまとまって土器が出土し、IVG 5a・5b・VG 1eグリッドでは第17図断面C-C'3層とC-C'13・14層で土器が出土する状況であった。

（遺物の取り上げ・層位）

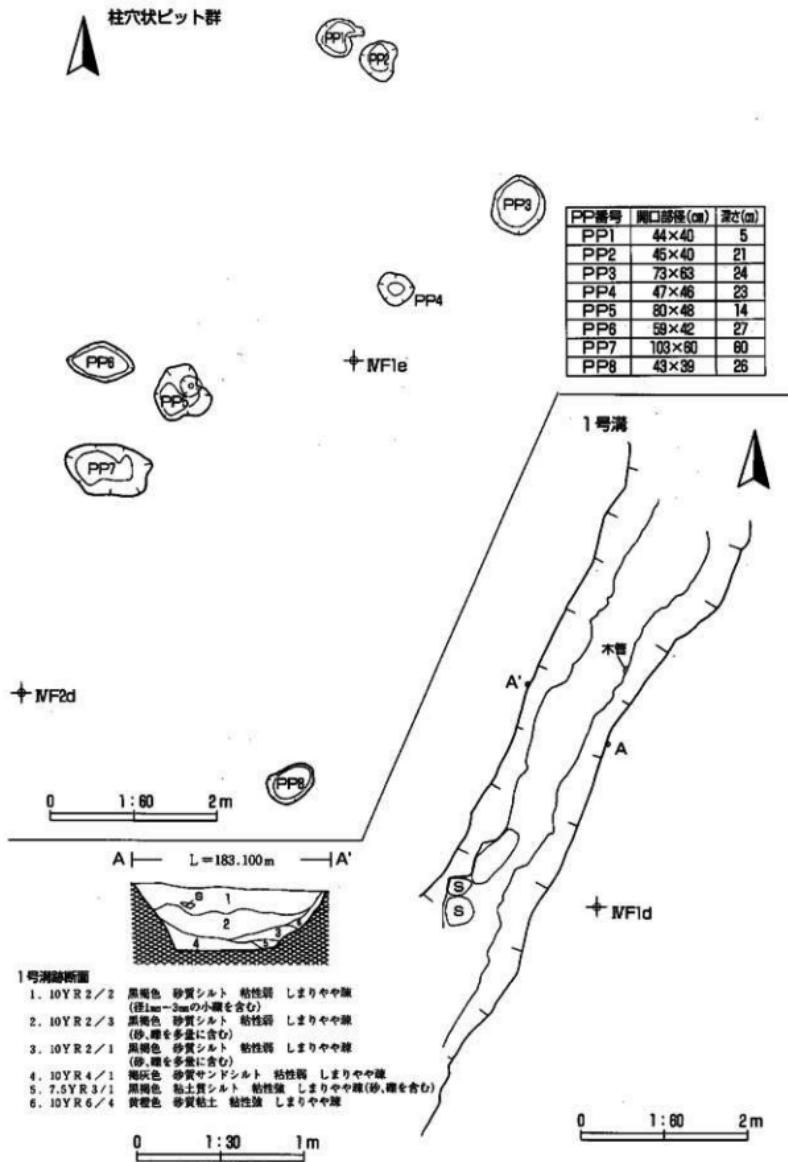
出土した遺物は小グリッド毎に、層位は第17図断面C-C'・D-D'3層で取り上げた土器、第16図断面図1層で取り上げた土器、第17図C-C'の1・2層で出土した土器については包含層上層とし、第17図断面図C-C'13・14層で取り上げた土器は下層として取り上げた。

（形成状況・性格）

IVG 5a・5b・VG 1eグリッドの範囲以外は出土した土器は上層である。IVG 5a・5b・VG 1eグリッドにおいて、砂層と黒色土及び黒褐色土が交互に形成されている。遺物包含層の性格については、東側から西側に流れ、気仙川に合流する小河川もしくは、気仙川の流路の変化によって形成されたと推測される。

（出土遺物）

包含層下層から出土した土器は、縄文時代前期初頭～前葉の土器（55～64）、縄文時代後期前葉の土器



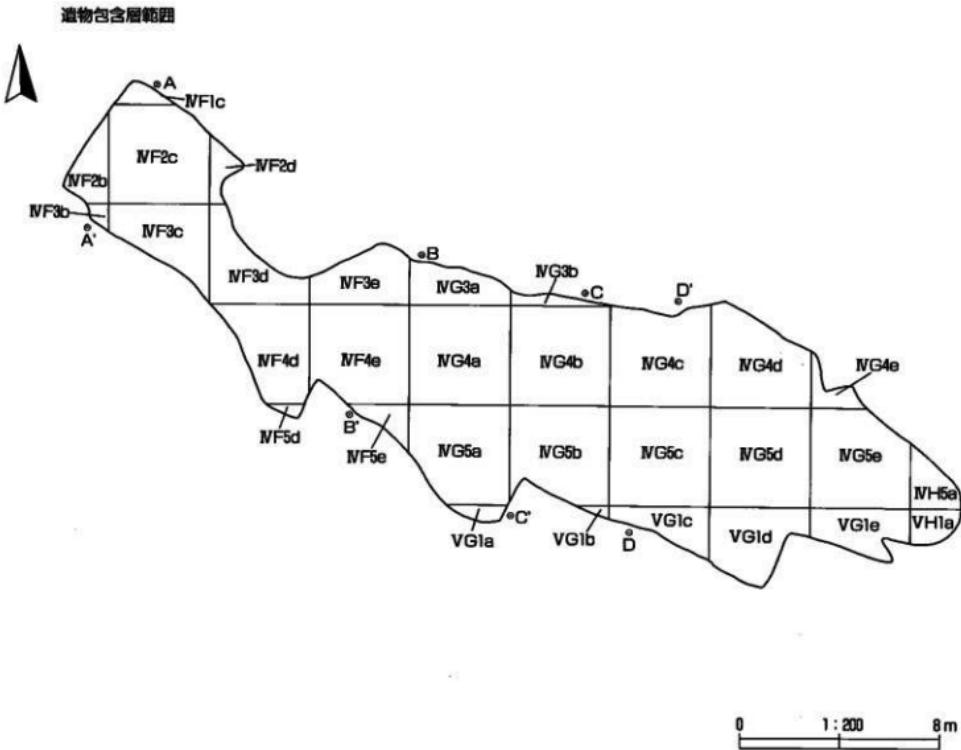
第14図 柱穴状ピット群・溝跡

～70)、縄文時代後期前葉～中葉と思われる粗製土器・突起が出土している。上層は縄文時代後期中葉が主であるが、縄文時代前期初頭～前葉の土器2点、縄文時代後期前葉の土器1点、弥生時代後期の土器が若干出土している。出土遺物の時期と層位に矛盾点がある。なおIV G 5dグリッド下層で、クルミ・柄の実等の植物遺体が出土している。

(形成時期)

包含層上層が形成された時期は出土遺物の状況から、縄文時代後期中葉以降と考えられる。包含層下層については、縄文時代前期初頭～前葉の土器、縄文時代後期前葉の土器、縄文時代後期前葉～中葉の土器が出土している。包含層下層の形成時期については、判然としないが縄文時代後期前葉以降に形成された可能性が考えられる。

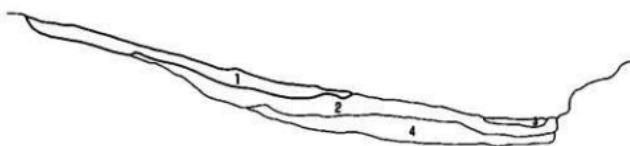
第15圖 畜物包含層範圍



A | —

L = 181.700 m

—| A'



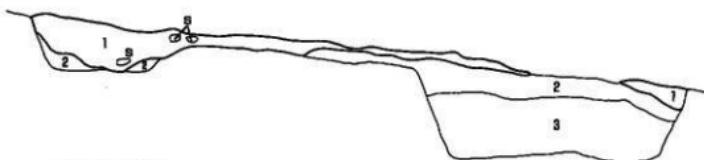
遺物包含層A-A'断面

1. 10YR 2/1 黒色 シルト 粘性強 しまり密(遺物包含層)
2. 10YR 2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり密
3. 砂礫層
4. 10YR 3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや密

B | —

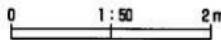
L = 181.700 m

—| B'

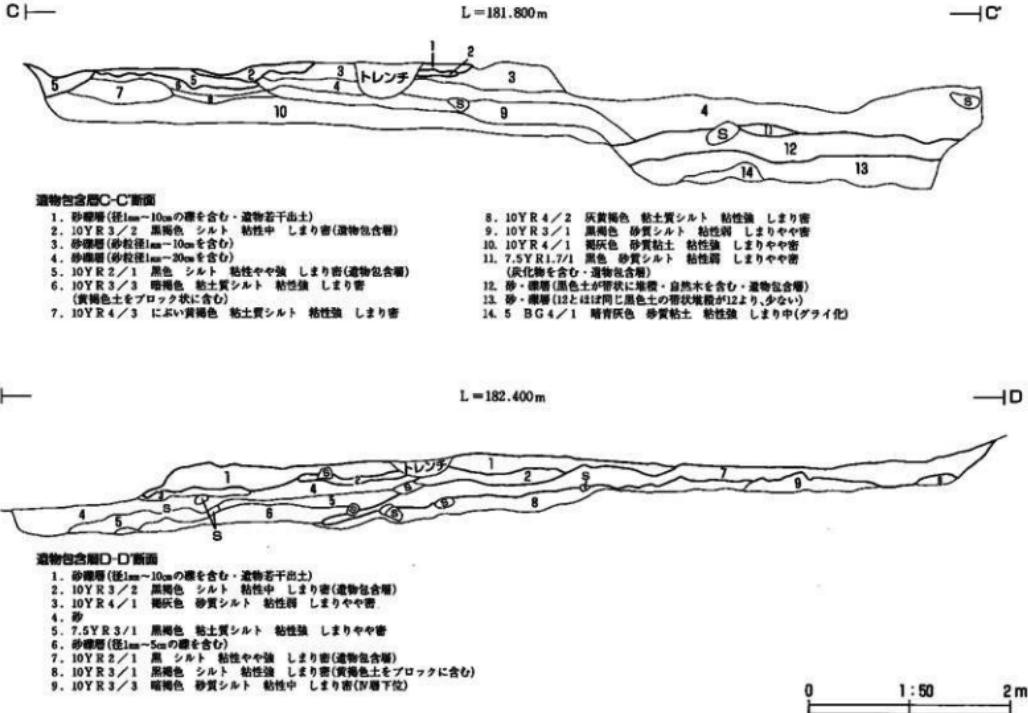


遺物包含層B-B'断面

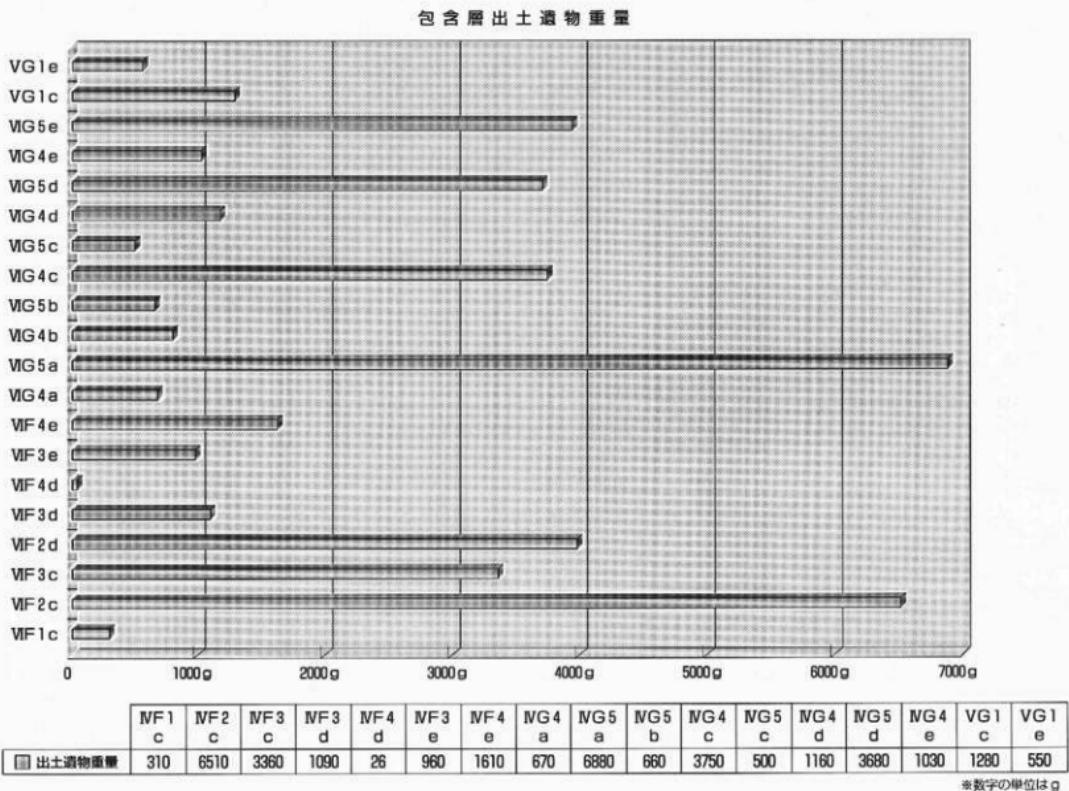
1. 10YR 2/1 黒色 シルト 粘性強 しまり密(遺物包含層)
2. 7.5YR 3/1 黑褐色 シルト 粘性強 しまり密(鐵を多く含む)
3. 10YR 4/1 偏灰色 砂質粘土 粘性強 しまり密(腐化鉄を含む)



第16図 遺物包含層断面(1)



第18図 遺物包涵層出土量グラフ



V. 本遺跡の出土遺物

(1) 土器・土製品 (第19~30図・写真図版14~22)

今回の調査で遺構内外から出土した土器の総量は、大コンテナ ($42 \times 32 \times 30\text{cm}$) で約6箱である。そのうち遺物包含層からの出土が大半を占める (大コンテナで約4箱)。遺物の時代時期は、縄文時代早期末、縄文時代前期初頭~前葉、縄文時代後期前葉~中葉、弥生時代中期~後期である。

遺物図版については、遺構内・遺物包含層・遺構外の順番に掲載し、遺構内遺物については、床面・埋土下位・中位・上位の順に、遺物包含層については、下層・上層の順に掲載し、下層・上層それぞれに文様・土器編年に基づき、遺構外出土遺物についても文様・土器編年に基づき掲載している。本文においては、遺構内・遺物包含層・遺構外を一括して、下記のとおりに分類した。

I群 条痕を有する土器 縄文時代早期末葉の土器 (151)

本遺跡での出土は151の1点のみである。内外面に条痕が認められ、口縁部と平行に隆起線が施されている。縄文時代早期末葉と考えられる。

II群 胎土に纖維を含む縄文時代早期末葉~前期前葉の土器

本群は胎土に纖維を含む土器、また、肉眼では纖維が確認できなかったが、纖維を含む土器と胎土が似通っているものを一括した (土器観察表には肉眼で纖維を認められなかつたものについては「纖維含?」と記している)。縄文時代早期末~前期前葉に位置づけられる土器群である。

出土した土器はほとんどが破片資料で、時代幅の中での時期を決定することは困難と考え、施文・原体・部位等によって下記のとおりに分類した。

II群1類 表裏縄文を有する土器 (22~25・32・153・157)

22・23・25・153・157は内外面共に単節縄文が施される土器である。22~25・153は口唇部に原体圧痕 (原体の端部か) が施される土器である。地文に使用された原体を圧痕しているものと思われる。22・23・25は折り返し口縁の土器である。24はループ文が施されている。

II群2類 組繩縄文が施されている土器 (1・2・4・10・30)

単節縄文の可能性も考えられるが、条と条の間隔が狭く節と節が未着するので組繩縄文 (高橋亜1992) が施されているものを一括した。胴部破片資料がほとんどで、口縁部破片は1号竪穴住居跡床面から出土した22のみである。22は口唇部に指頭状圧痕が施される。

II群3類 単節縄文が施されている土器 (5・8・15~17?・34・40・42・43・44・51・55~58・62・63・78・152?・155・156・158)

15・16は同一個体で、1号住居状遺構の床面から出土した口縁部で0段多条の原体を施しているものと思われる。5・8・43・55・56は結束が施されている。57・58は口縁部で口唇部に原体回転が施されている。17は浅い原体回転による施文と思われ、内面は不確実ではあるが、縄文の節が確認できる部分もあり表裏縄文の可能性もある。34は補修孔がある。155は底部が尖底となる土器である。いずれも纖維を含む土器である。

II群4類 復節縄文を施している土器 (3・45)

胴部破片である。纖維を含む土器である。

II群5類 捨糞文が施されている土器 (41)

口縁部破片で捨糞文?を地文とし口唇部は、原体回転が施されているものと思われる。補修孔があり、口縁部は波状口縁を呈すると思われる。

II群6類 羽状縄文が施されている土器 (6・7・26-28・35・53)

胸部破片の資料のみで、単節の羽状縄文が施されている。結束が確認できるものは53の1点のみである。

II群7類 線縁文または綾縁文状の文様が施されている土器 (9・31・154)

胸部破片のみである。9は1号堅穴住居跡から出土している。

II群8類 ループ文が施されている土器 (19・21・60・61・79)

口縁部の小破片のため、詳細について不明であるが、ループ文が4段のもの (21)、4段以上のもの (60)、2段のもの (61)、1段以上のものがある (19・79)。19は無節の縄文が施される。21の口縁部は平縁を基調とするが、部分的に小波状の突起をもち、側面はループ下に羽状縄文が施される。60・79の口縁部は波状口縁を呈する。

II群9類 胸部・頸部付近に縄の側面圧痕が施される土器 (11・12・52・81)

胸部・頸部付近資料がほとんどで詳細については不明であるが、いずれも地文に単節縄文を平行・ランダムに圧痕を施している。地文と同じ原体が使用されたものと思われる。11・12は、胎土が似通っていること、出土地点層位 (1号堅穴住居跡のピット埋土出土) が同じことから同一個体と思われる。81は口唇部に刻目をもつ。

II群10類 沈線が施される土器 (33)

沈線が3本平行に施される。土器片下部に無節縄文? が確認できる。

II群11類 前記した分類に属さないもの。 (18・20・59・80)

原体・施文が不鮮明で判別が不可能なもの、また前記した分類以外の土器を一括した。

18の地文は単節の可能性があるが判別できなかった。口唇部は原体の端部で圧痕されたものと推測される。20の地文は捺文系Rもしくは単節のL R縄文かと考えたが判別できなかった。口縁部は波状口縁を呈すると思われる。59は原体は判別できなかったが、土器片下部に綾縁文を展開する原体が確認できる。口唇部は指頭状圧痕が施され、口縁部上端は刻目をもつ。80の外表面はナデによる。肉眼で胎土に纖維を確認することはできなかったが、口唇部指頭圧痕と胎土が22と似通っている。

II群12類 底部を一括した (13・29・64)

29は乳頭状の底部である。64は平底で内面は不鮮明であるが、縄文? が確認できる。いずれも胎土に纖維を含む土器である。

III群 縄文時代後期の土器・土製品を一括した (14・36・37・48-50・54・65-77・82-140・159-172)。

1類 縄文時代後期前葉の土器 (65-70・82)

新山椎現社遺跡II群土器に比定されるものである。1~3本の沈線に区画された狭い縄文帯が曲線文様を構成し、無文帯は磨消縄文による。器形は深鉢の波状口縁を呈する。

2類 縄文時代後期中葉の土器 (14・48・54・83-115・159-165・167)

新山椎現社遺跡III群に比定されるものである。破片資料が多く文様等により区分すると下記の通りである。

a 縄文地に平行沈線が引かれるもの (54・84)、平行沈線を区切る弧状沈線を伴うもの (83・85-87・159・160)。

b 刻目・刻目帯をもつもの (88-95)。うち92・93の器種は壺である。共に縄文は羽状縄文が施され、頸部に刻目帯が施され、沈線間に無文帯(磨消縄文)をもつ。94は93の同一個体と思われる。95も器種は壺と思われる。頸部は刺突列によって文様が施されている。

c 平行・曲線的な沈線・連続する刺突(斜め方向から)・磨消縄文によって文様が構成されるもの (96

・97・163)。96は4単位の立体的な装飾把手である。

d 沈線に区画された狭い縄文帯によって文様が構成されるもの(98・99)。98は口縁部と平行に沈線が引かれる。99は曲線的な沈線で文様が構成される。

e 無文の波状口縁の口縁部(48・101・102)。無文帯の調整はミガキによる。

f 壺・注口土器の肩部と思われる土器。内面調整が指ナデによるもので、器種は壺もしくは注口土器と思われる(104-106)。縄文地に沈線・磨消縄文が施されるもの(104)、無文帯に沈線が施され・底部付近に段をもつものがある(105・106)。

g 文様が縄文地に沈線・磨消縄文で構成されるもの(107-114)。111は地文に羽状縄文が施され沈線Y字状に分かれる。内面調整はナデによるもので、壺の可能性が考えられる。

h その他(前記した土器以外のもの、又器種が不明確なもの) 100は、壺の肩部の可能性がある。平行に沈線が引かれる。103は格子状に沈線が引かれる。内面はミガキによる調整が施される。深鉢(波状口縁)の肩部の可能性がある。115は無文帯(ミガキ)に沈線が平行に引かれる。破片資料のため器種は判別できなかった。161は地文により、沈線間の狭い無文帯によって区画され、口縁部に突起をもつ。突起部に沈線が施されている。164は、地文は縄文により沈線間の無文帯によって区画され、器面には赤色顔料が施される。器種は壺の底部の可能性がある。14・165は壺の口縁部と思われる。文様は沈線・無文帯で構成され、165は口縁部に小突起を持つ。167は突起である。167は沈線・刺突列が施される。

3類 台付・無文・粗製土器・突起を一括した。出土した土器群と考え合わせて、縄文時代後期前業～中葉に位置づけられる(36・37・49・50・71-77・83-86・116-132・166)。

71-77は遺物包含層下層から出土した土器である。73は口縁部と平行に側面を二条の原体圧痕を施し、原体圧痕間は無文帯である。75・76は肩部付近から外傾する器形である。

36・37・116-118は台付の土器である。116は沈線が施されている。119-132は遺物包含層上層から出土した土器である。119は口縁部が頸部付近から外傾する器形である。120は無文の土器で外面の調整は口縁部から頸部にかけて横方向のケズリ・ミガキ、頸部から底部にかけて縦方向のミガキ(部分的にケズリが見られる)。内面調整は、口縁部から頸部にかけて横方向のケズリ、頸部から底部にかけて縦方向のミガキが行われている。底部は網代痕が鮮明に確認でき、部分的にケズリの調整が行われている。器形は頸部から口縁部にかけてやや内湾する。121は胎土の色調が赤褐色を呈し、焼成が良好で、器厚は約1cmでⅢ群3類土器群の中で1番厚い。内面はケズリによる調整である。1号住居状遺構埋土からと遺物包含層内からの出土片で接合した。131の折り返し口縁の土器と胎土・器厚から同一個体であろう。122・123の原体は0段多条で、口縁部上端がやや肥厚する。123は口縁部径が計測可能な土器の中で最大である。124は補修孔をもつ。125・126は鉢である。125の調整は口唇部・内面がミガキ・頸部下端・底部はケズリの調整が行われている。126は底面が丸みを呈し、碗状の器形で内・外面共にミガキによる調整である。127は口縁部がやや内湾する。内面はケズリによる調整が行われている。128は噴水状の櫛齒状文が施される。129・130は口縁部が無文帯の下に沈線が引かれる。132は口縁部に刺突(斜め下から)・沈線が施されている。波状口縁と思われる。166は格子状沈線が施される。167は突起である。

4類 底部を一括した。出土した土器群と考え合わせて縄文時代後期前業～中葉に位置づけられる。

133-140・168-170は深鉢の底部である。133は、肩部上半から無文帯が確認される。134は、底部に網代痕が確認でき、ケズリによる調整が行われている。135・136についても底部にケズリによる調整が行われている。137は、沈線文が確認される。138-140・168-170は底部に網代痕が確認できる。

5類 土製品を一括した。出土した土器群と考え合わせて縄文時代後期前葉～中葉に位置づけられる。
171はスタンプ形の土製品である。孔を有し、沈線によって文様が構成される。172は土偶の足部と思われる。外面はナデによる調整が行われている。

IV群 弥生土器を一括した。(38・39・46・47・141～150・173～180)

弥生時代中期～後期と思われる。破片資料が多く明確な時期・器種を把握するに至らなかった。小田野編年（小田野：1987）IV期・V期に相当するものと思われる。

38・39は同一個体である。田舎館式に相当し弥生時代中期に属すると思われる。文様が把握できるもので沈線文によって構成されるもの（47・142・174・175・176）、刺突列・沈線文によって構成されるもの（46・141・143～145）、陸帯・折り返し口縁が施されるもの（147・173）、綾織り文が施されるもの（146）などがある。141・143は交互刺突文、142は交互刺突文が退化したものと思われる。177は口唇部に指頭状圧痕が確認される。144・150は地文が撫糸文で施される。148・149・179は単節縄文が施されている。148は頸部に縄文原体が施される。180は底部であるが、胎土が173・176の土器と似通っていることから本群とした。それぞれ、弥生時代後期に属するものと思われる。

(2) 石器 (第19~21・28・30図・写真図版23)

本遺跡で遺構内外・遺物包含層から出土した石器の総数は58点である。その中から、使用痕があまり認められないもの、風化が著しいもの等は割愛し、遺構内から出土したもの、使用痕がはっきり認められるもの、石鎌・石匙などの定型石器として認識されているものを実測掲載した。掲載点数は15点である。

石鎌 (3・9・13~15)

本遺跡から5点出土した。すべて無茎石鎌で、その中で凹基 (3・9・13・15)、平基 (14) の二つに分けられる。更に凹基の中で抉入が比較的浅いもの (3・9・15)、深いもの (13) がある。14はいわゆるアメリカ式石鎌と呼ばれるものである。15は他の石鎌に比べ剝離調整が粗いが石鎌とした。

石匙 (5・6)

本遺跡から2点出土した。5はツマミの位置が継で側刃部・先端部に剝離調整が施される。6は5に比べ剝離調整が雑である。側刃部に刃部を持つ。

尖頭器 (8)

本遺跡から1点出土した。尖頭部・側刃部に剝離調整が行われている。

石錐 (11)

本遺跡から1点出土した。明確な使用痕は認められず、剝離調整も雑である。

搔・削器 (2・4・7・10)

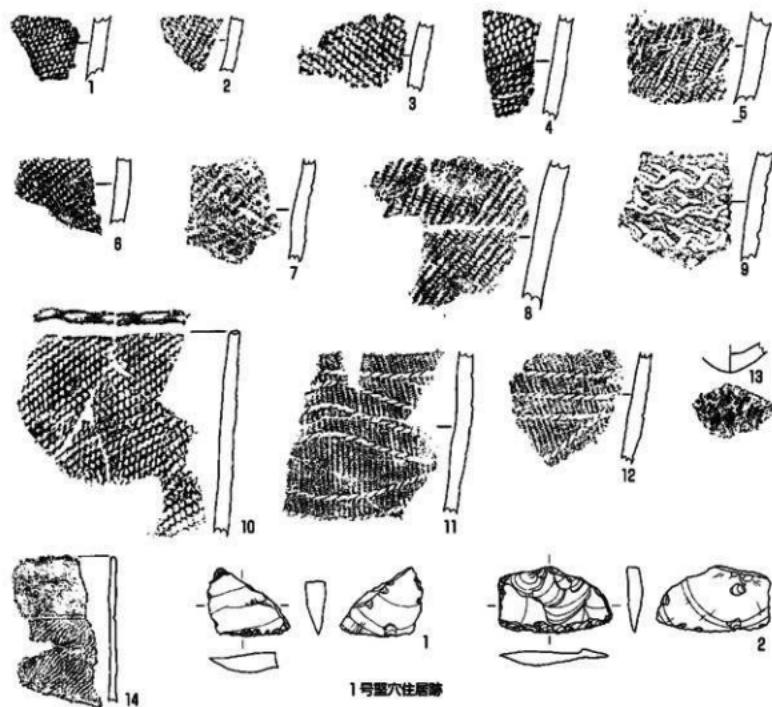
ほぼ全刃に加工が施されているもの (4・10)、2刃に加工が施されているもの (7)、1刃に加工が施されているもの (2) がある。7は5と剝離調整が類似する。

剥片 (1)

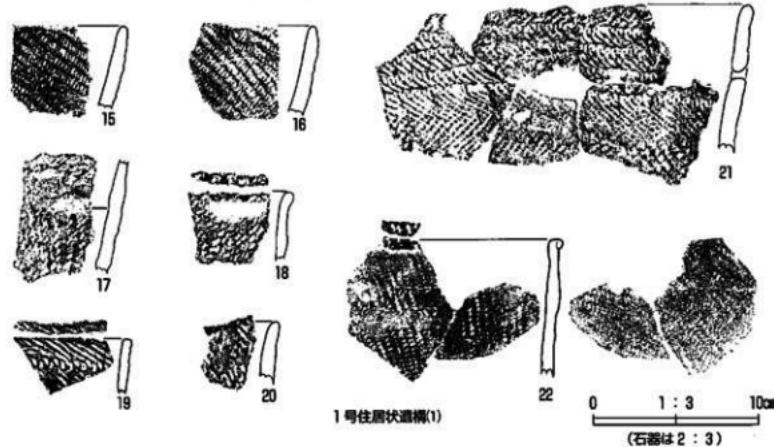
使用痕が認められなかった。

磨石 (12)

両器面に擦痕が確認される。



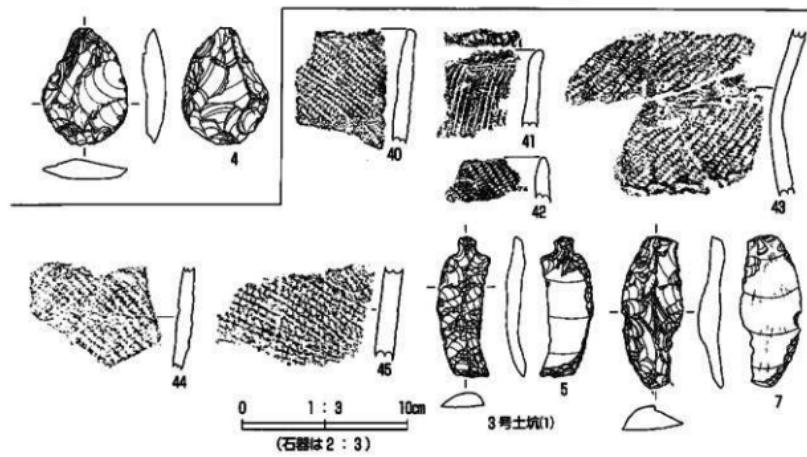
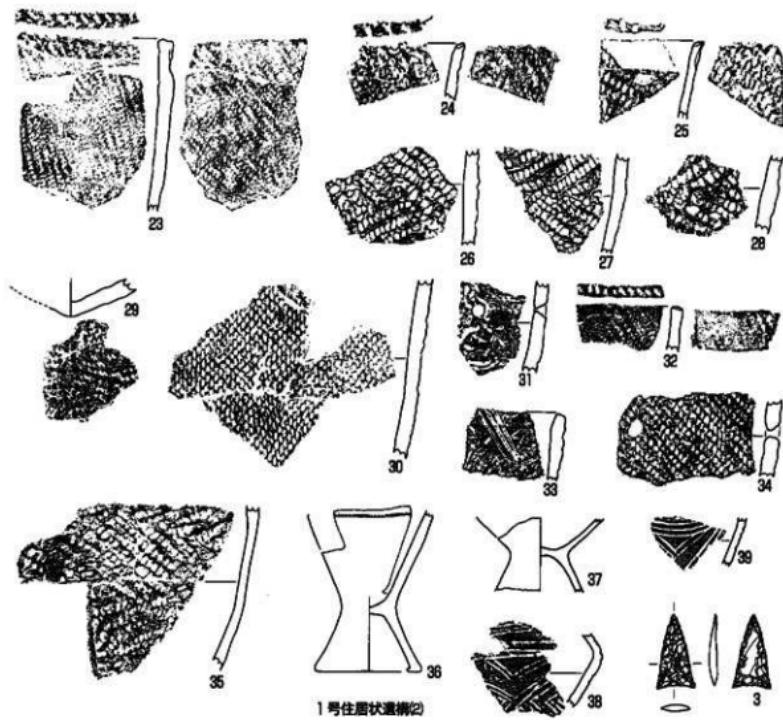
1号堅穴住居跡



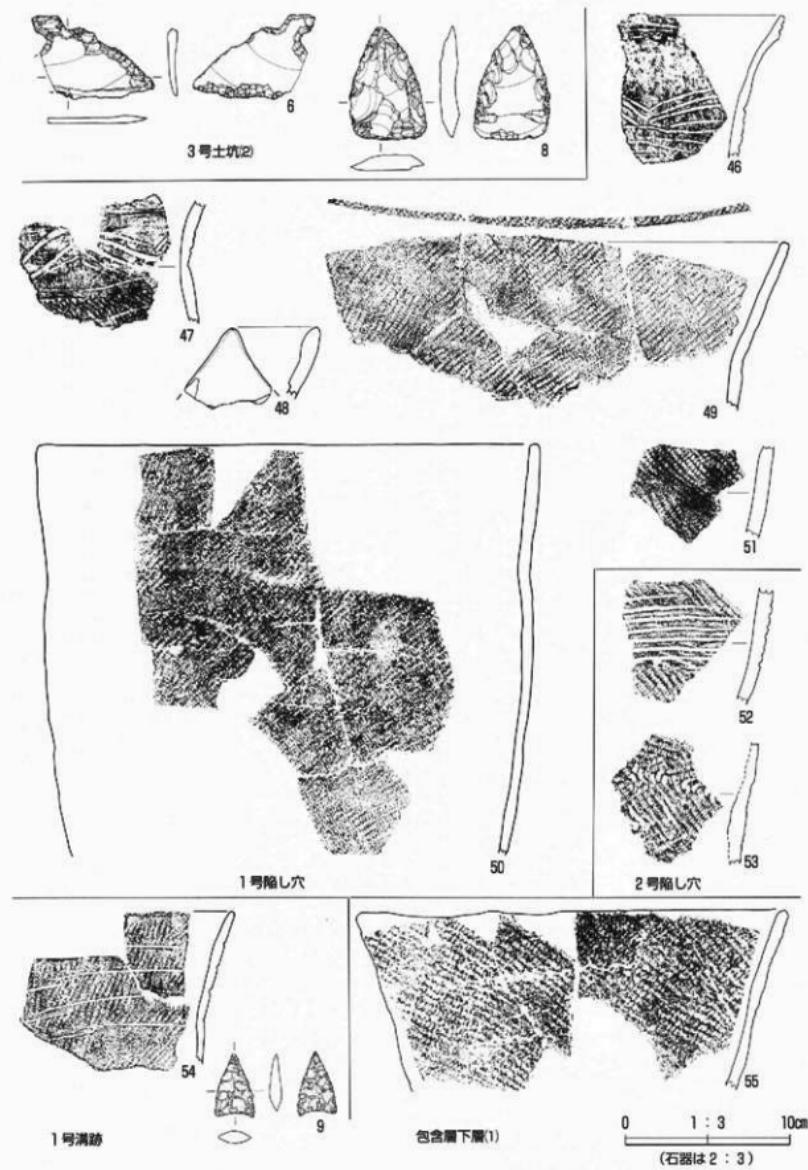
1号住居状遺構(1)

0 1 : 3 10cm
(石器は2 : 3)

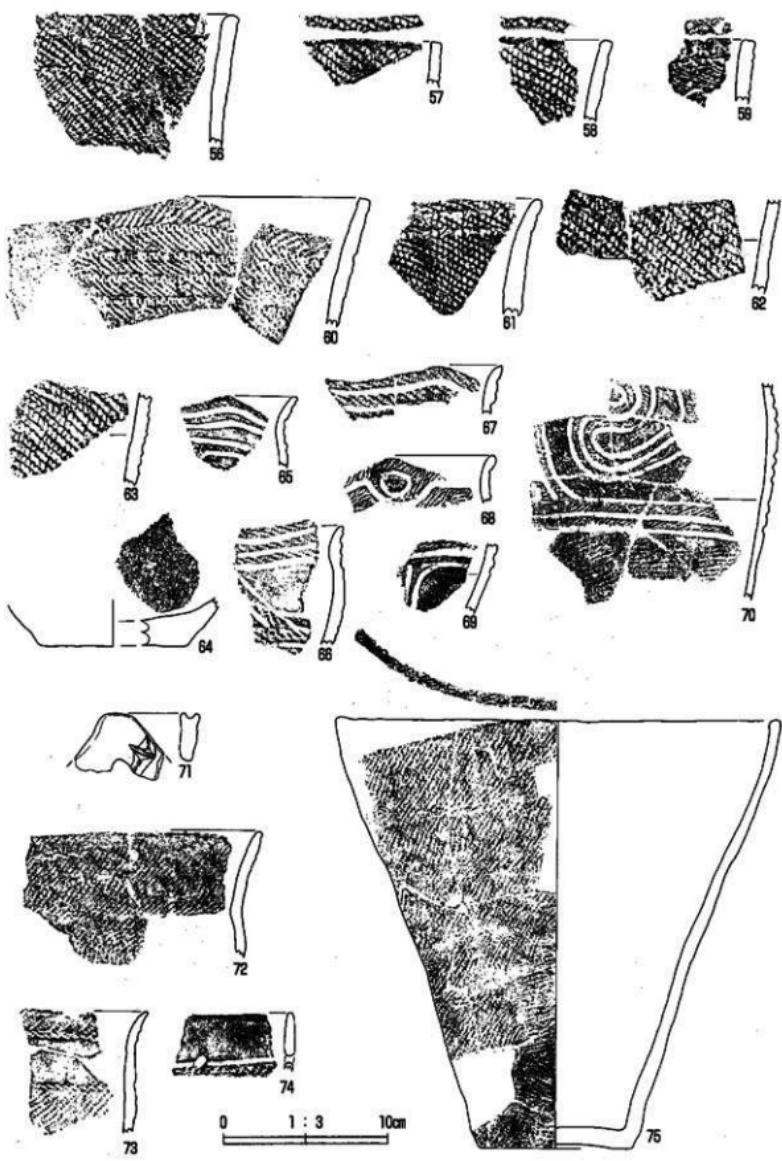
第19図 遺構内出土遺物(1)



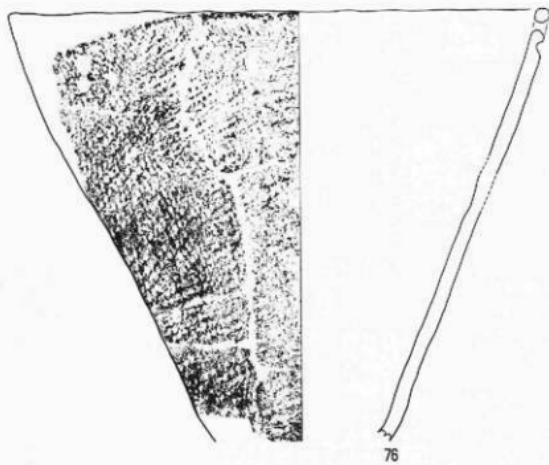
第20図 遺構内出土遺物(2)



第21図 遺構内出土遺物(3)・遺物包含層下層出土遺物(1)



第22圖 遺物包含層下層出土遺物(2)



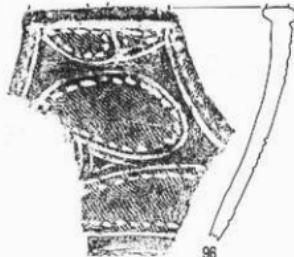
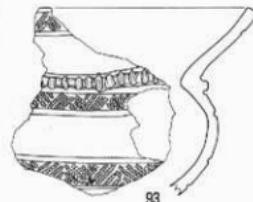
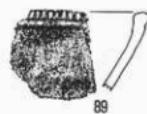
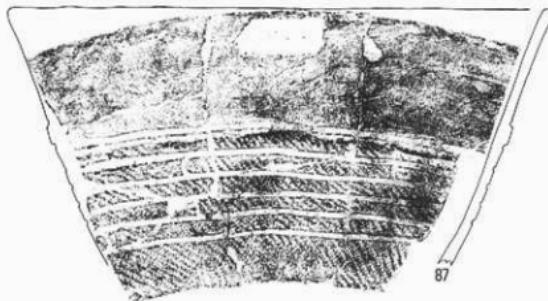
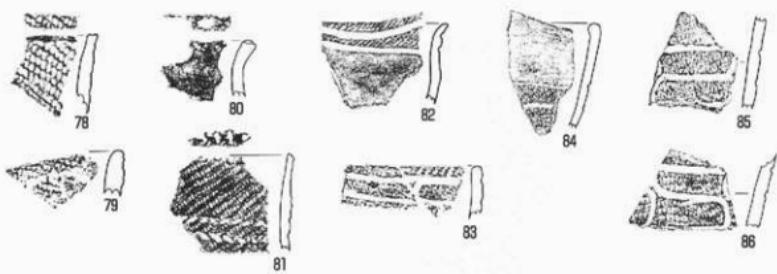
76



77

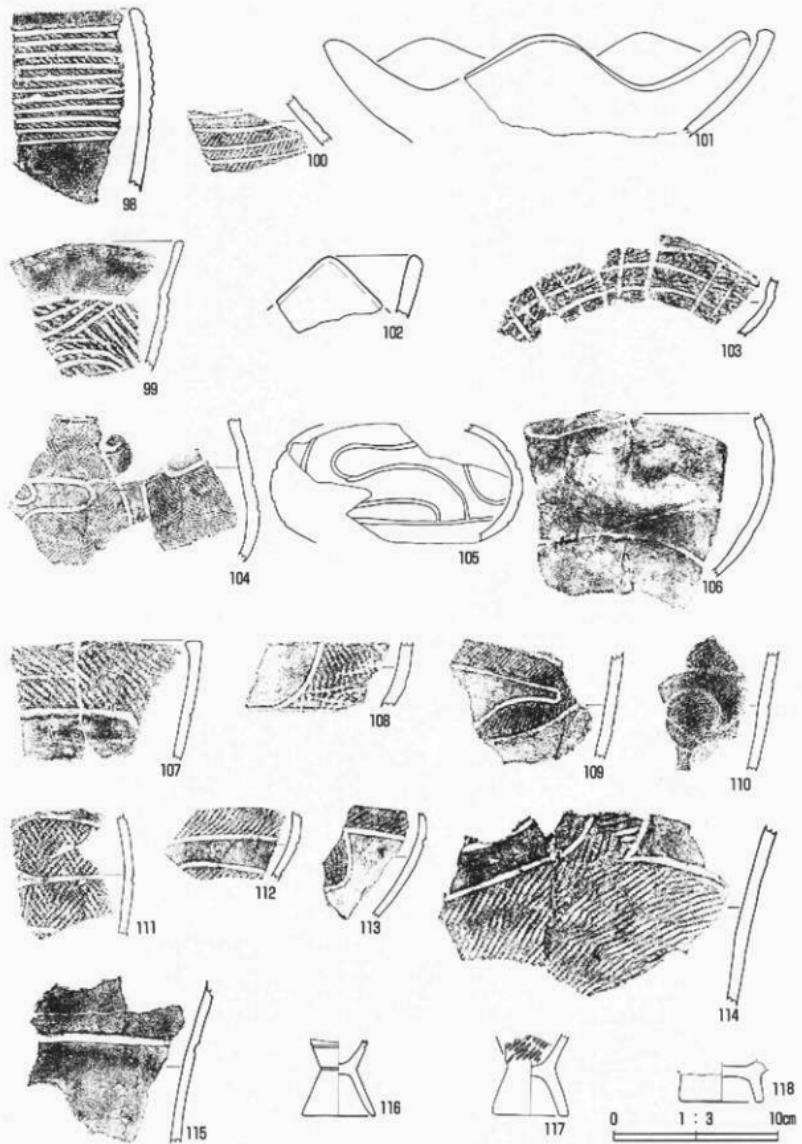
0 1 : 3 10cm

第23図 遺物包含層下層出土遺物(3)

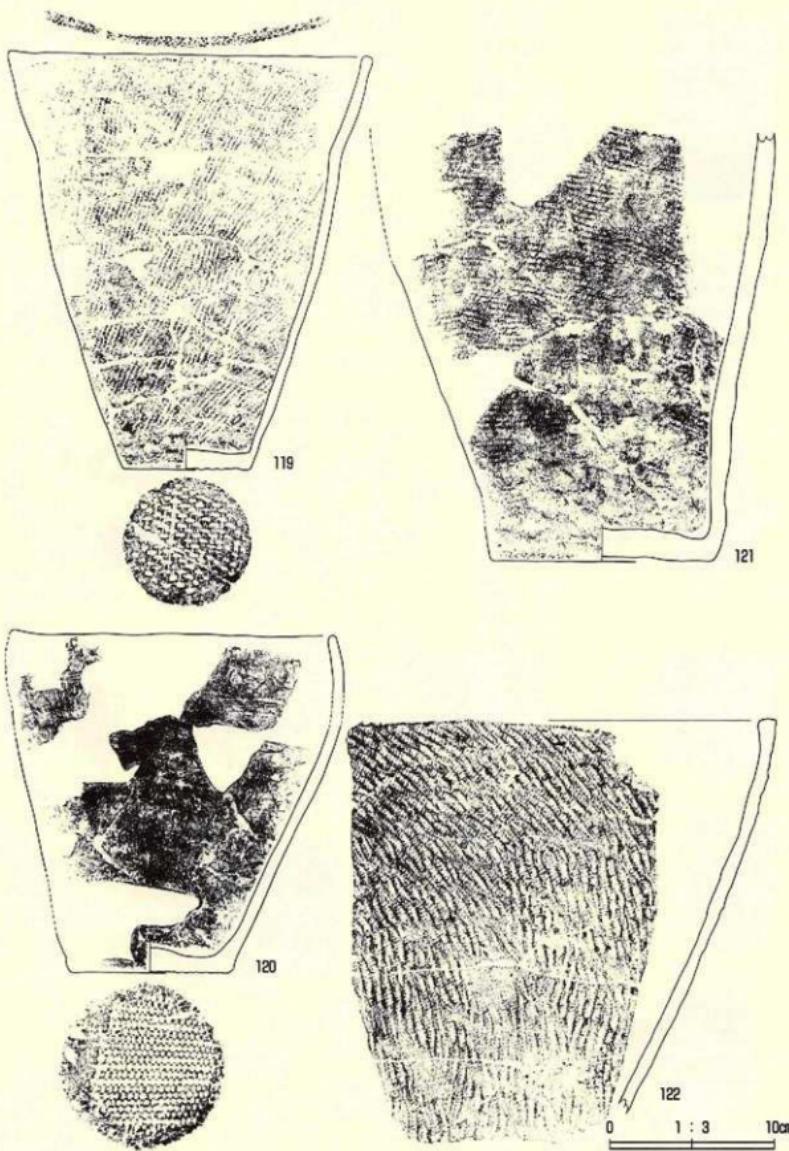


0 1 : 3 10cm

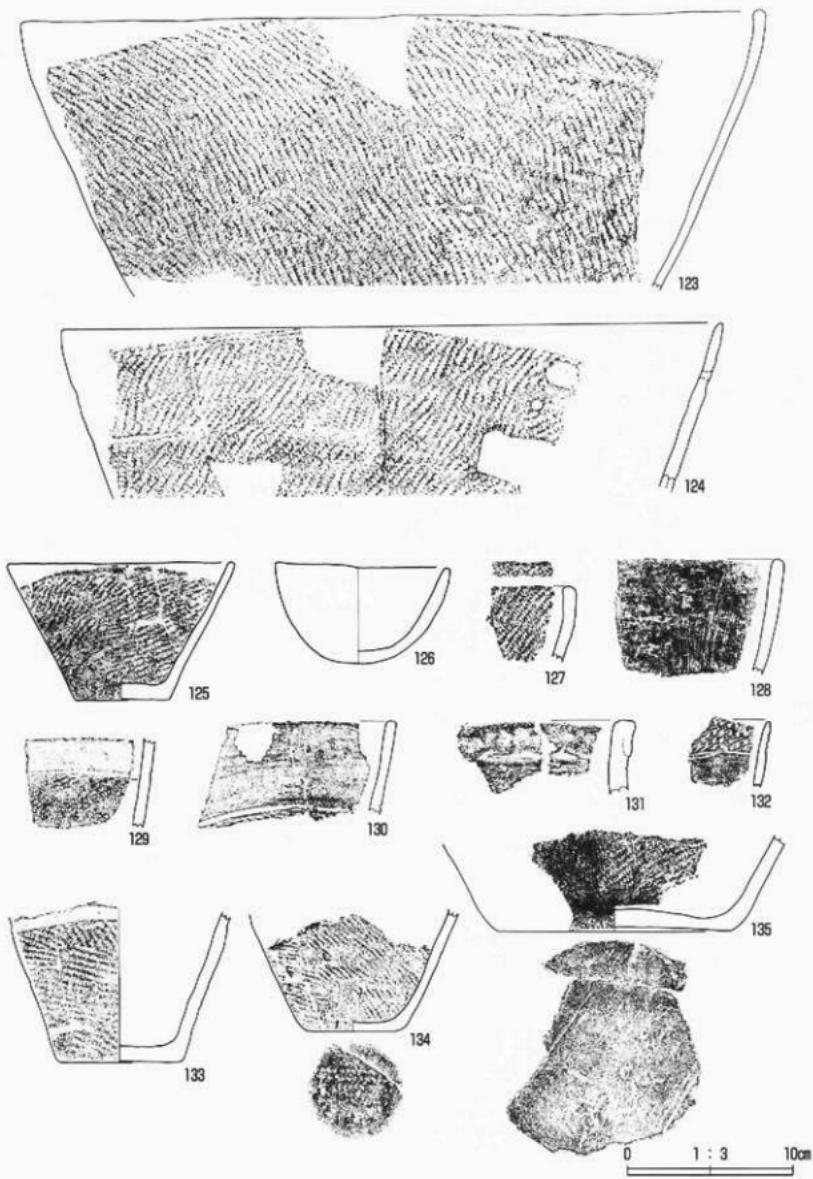
第24図 遺物包含層上層出土遺物(1)



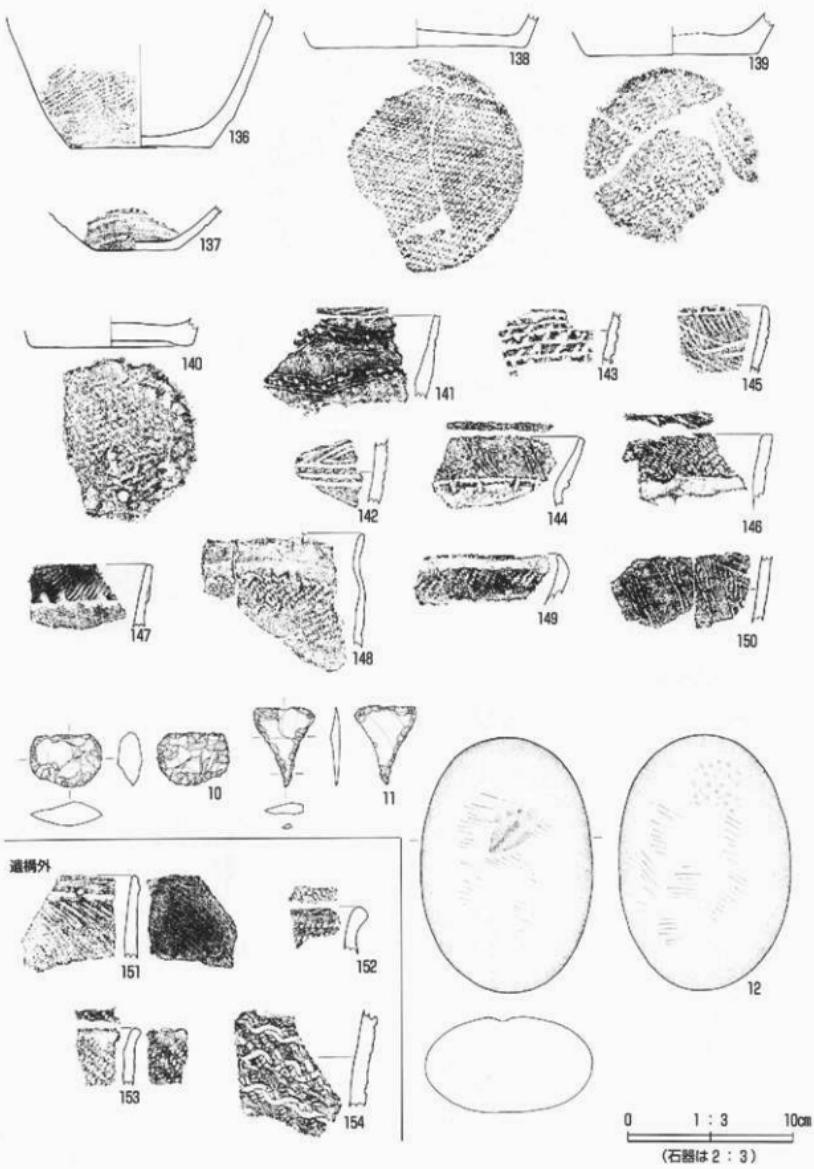
第25図 遺物包含層上層出土遺物(2)



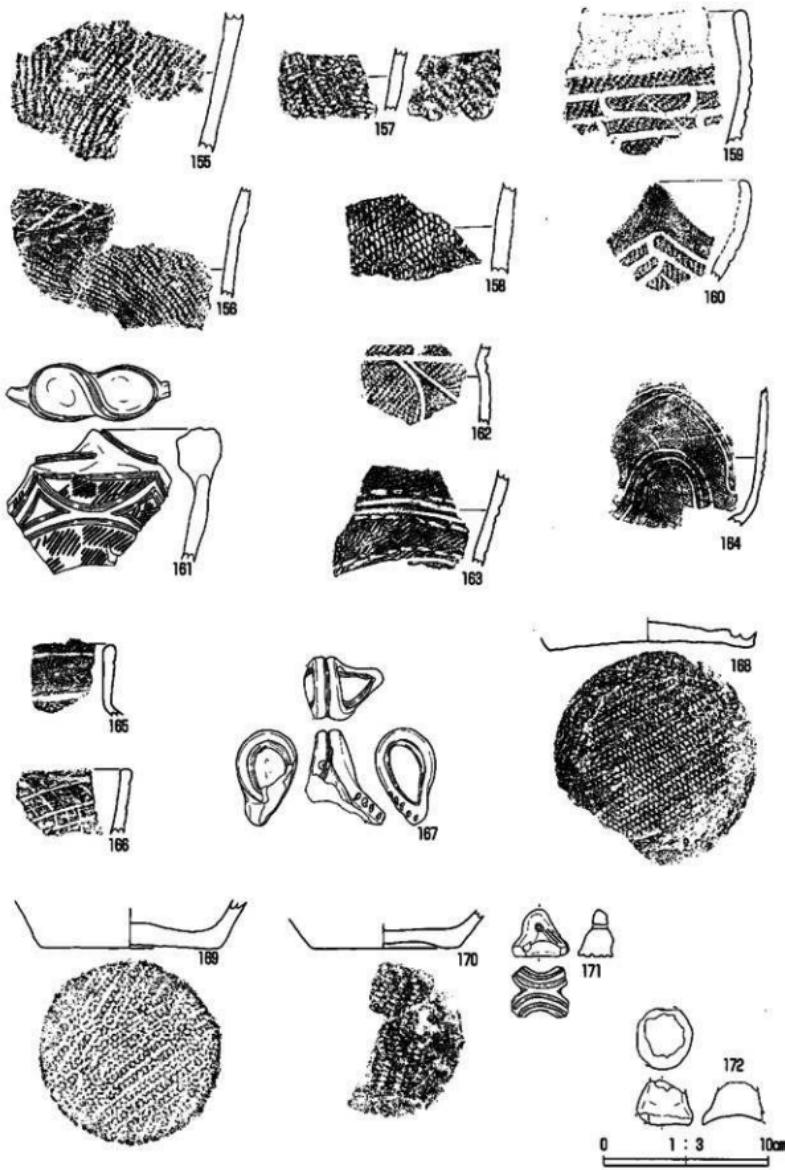
第26図 遺物包含層上層出土遺物(3)



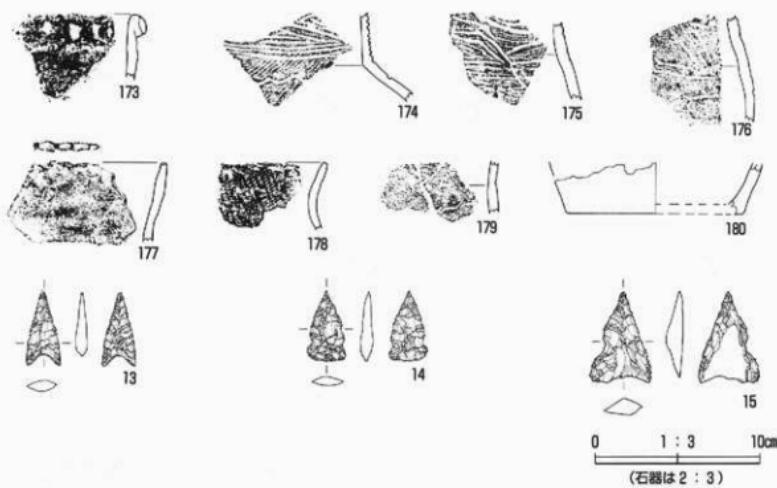
第27図 遺物包含層上層出土遺物(4)



第28図 遺物包含層上層出土遺物(5)・遺構外出土遺物(1)



第29図 遺構外出土遺物(2)



第30図 遺構外出土遺物(3)

第2表 中和田遺跡遺物観察表（土器）

編号	出 土 地	器 形・部 位	原 体・文 標・胎 土・等	内 面	備 考	分類	口径cm	高さcm	底径cm
1	1号窓穴付周縁床面	深鉢・脚部	粗陶丸文 繩維合？	ナテ		II 2			
2	1号窓穴付周縁床面	深鉢・脚部	粗陶丸文 繩維合	ナテ		II 2			
3	1号窓穴付周縁床面	深鉢・脚部	R.L. 繩維合	ナテ		II 4			
4	1号窓穴付周縁床面	深鉢・脚部	粗陶丸文 繩維合	ナテ		II 2			
5	1号窓穴付周縁土下位	深鉢・脚部	L.R.純文？結節 繩維(多) すす付器	ナテ		II 3			
6	1号窓穴付周縁土中位	深鉢・脚部	L.R.純文 繩維合	ナテ		II 6			
7	1号窓穴付周縁土中位	深鉢・脚部か	劣状純文L.R. R.L. 繩維合	ナテ		II 6			
8	1号窓穴付周縁土中位	深鉢・脚部下半	L.R.純文か 繩維合(多) 内面すす付器	ナテ		II 3			
9	1号窓穴付周縁土中位	深鉢・脚部	繩維(少)原体R.L.	ナテ		II 7			
10	1号窓穴付周縁土中位	深鉢・口縁部	粗陶丸文 口唇部斜状付器 繩維合	ナテ		II 2			
11	1号住居櫛PP 5層上中位	深鉢・脚部	R.L.純文(後文)、R.L.純文底痕 繩維合(少)	ケズリ?強いナテ?		II 9			
12	1号住居櫛PP 5層上	深鉢・脚部か	R.L.純文(後文)、R.L.純文底痕 繩維合(少)	ケズリ?強けナテ?		II 9	(30.0)		
13	1号住居櫛PP 1層上	底盤	尖底土器	ナテ		II 12			
14	1号窓穴付周縁土中位	豊?・口縁部	L.R.純文 平行沈線 無文帶三才牛	ミガキ		II 2			
15	1号住居櫛底面	深鉢・口縁部	0段多角形 繩維合(多)	ナテ	16と同一個体	II 3			
16	1号住居櫛底面	深鉢・口縁部	0段多角形 繩維合(多)	ナテ	15と同一個体	II 3			
17	1号住居櫛底面	深鉢・脚部	R.L.純文?浅い純文 繩維合	純文	表裏純文か	II 3?			
18	1号住居櫛底面	深鉢・口縁部	前々段付脚か R.L.純文か 純文 口唇部原体底痕(原体先端部) 繩維合?	ナテ		II 11			
19	1号住居櫛底面	深鉢・口縁部	脚付 フレーベ底痕 (原体先端部)口唇部原体口輪 繩維合	ナテ		II 8			
20	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	脚付アーチ型 波状口縁 繩維合	ナテ		II 11			
21	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	ループ口横 制付孔1段多角 縫修孔 口唇部平縁を基調としているが部分的に波状 繩維合	ナテ		II 6			
22	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	波状純文・R.L.純文 折り返し口縁・原体底痕 繩維合?	純文	22と同一個体	II 1			
23	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	波状純文・R.L.純文 折り返し口縁成形後、R.L.純文底痕 口唇部原体底痕 繩維合?	純文	23と同一個体	II 1			
24	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	波状純文 ループ R.L.純文 折り返し口縁 口唇部原体底痕 繩維合	純文		II 1			
25	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	波状純文 ループ R.L.純文 口唇部原体底痕(原体先端部) 繩維合?	純文		II 1			
26	1号住居櫛底面土下位	深鉢・脚部	羽状純文 R.L.・L.R. 繩維合(少)	ナテ		II 6			
27	1号住居櫛底面土下位	深鉢・脚部	羽状純文・R.L.・L.R. 繩維合(少)	ナテ		II 6			
28	1号住居櫛底面	深鉢・脚部	羽状純文・R.L.・L.R. 繩維合	ナテ		II 6			
29	1号住居櫛底面土下位	底盤	尖底土器 R.L.純文 繩維合	ナテ		II 12			
30	1号住居櫛底面土上位	深鉢・脚部	粗陶丸文 繩維合(多)	ナテ		II 2			
31	1号住居櫛底面土下位	深鉢・脚部か	繩縦り原体痕滅のため不明 真造孔? 繩維合?	ナテ		II 7			
32	1号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	波状純文 口唇部原体底痕 繩維合	純文		II 1			
33	1号住居櫛底面土上位	深鉢・口縁部	沈縫 助石石灰を含む 繩維合?	ナテ		II 10			
34	1号住居櫛底面土上位	深鉢・脚部?	R.L.純文 繩維合(多) 縫修孔	ナテ		II 3			
35	1号住居櫛底面土上位	深鉢・脚部	羽状純文・R.L.・L.R. 結束あり 繩維合	ナテ		II 6			
36	1号住居櫛底面土上位	台付	羽状純文・R.L.・L.R. 繩維合	ケズリ?強けナテ?		II 3			
37	1号住居櫛底面土上位	台付	外面三才牛	ナテ		II 3			
38	1号住居櫛底面土上位	豊・脚部~脚部	R.L.純文 沈縫	ナテ		N			
39	1号住居櫛底面土上位	豊・脚部	R.L.純文 沈縫	ナテ		N			
40	3号住居櫛底面土下位	深鉢・口縁部	R.L.純文 繩維合	ナテ		II 3			
41	3号住居底面土下位	深鉢・口縁部	無文? 口唇部原体凹板か 縫修孔 波状口縁 繩維合	ナテ		II 5			
42	3号住居底面土下位	深鉢・口縁部	R.L.純文 繩維合	ナテ		II 3			
43	3号住居底面土上位	深鉢・脚部か	羽状純文 R.L.・R.L.純文 繩維合(多)	ナテ		II 3			
44	3号住居底面土上位	深鉢・脚部	R.L.純文 繩維合(多)	ナテ		II 3			
45	3号住居底面土上位	深鉢・脚部	R.L.純文 繩維合	ナテ		II 4			
46	1号階下穴付土上位	深鉢・口縁部	沈縫 口唇部に刻 刻突列	ミガキ		N			
47	1号階下穴付土上位	口縁部~脚部	R.L.純文 沈縫 口唇部にはぼ近い	ナテ		N			
48	1号階下穴付土上位	深鉢・口縁部	波状口縁部 ミガキ	ミガキ		II 2			
49	1号階下穴付土上位	深鉢・口縁部・脚部	R.L.純文 口唇部原体底痕	ミガキ	50と同一個体	II 3			

番号	出土地点	器種・部位	原体・文様・胎土等	内・面	品号	分類	口径cm	高さcm	底径cm
50	1号窓し穴墳土上位	深鉢・口縁部・肩部	L・R・筒文 口唇部原体回転 織維含	ミガキ	48と同一個体	■3	(30.0)		
51	1号窓し穴墳土上位	深鉢・脚部	L・R・筒文	ナデ		■3			
52	2号窓し穴状通溝土中位	深鉢・脚部	R・L・筒文(窓状後口)・筒文 織維含	ナデ		■9			
53	2号窓し穴状通溝土中位	深鉢・脚部	羽状模文・L・R・FIM 結束あり 織維含(多)	ナデ		■6			
54	1号溝土下位	深鉢・口縁部	L・R・筒文 沈線 金型母合(少)	ミガキ		■2			
55	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	L・R・筒文? 窓部 織維含(多)	ナデ		■3	(25.5)		
56	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	L・R・筒文?	ナデ		■3			
57	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 口唇部原体回転 織維含	ナデ	58と同一個体か	■3			
58	MF 2a窓食器下部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 口唇部原体回転 織維含	ナデ	57と同一個体か	■3			
59	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	口唇部原体割目 織紋り文? 口唇部窓状後口 織維含	ナデ		■11			
60	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	深鉢・口縁部 ループ L・R・筒文 織維含	ナデ?		■8			
61	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	ループ L・R・筒文 織維含(少)	ナデ		■8			
62	MG 5b窓食器下部	深鉢・脚部	R・L・筒文 織維含	ナデ		■3			
63	MG 5b窓食器下部	深鉢・脚部	R・L・筒文 織維含	ナデ		■3			
64	MG 5b窓食器下部	底部	内面・筒文? 織維含	筒文?		■12			
65	VG 1e窓食器下部	深鉢・口縁部	波状口縁 L・R・筒文 沈線	ミガキ		■1			
66	VG 1e窓食器下部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 沈線 無文帯(墨消筒文)	ミガキ		■1			
67	VG 1e窓食器下部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 沈線 波状口縁	ミガキ		■1			
68	VG 1e窓食器下部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 沈線 波状口縁	ミガキ		■1			
69	VG 1e窓食器下部	深鉢・脚部上半	R・L・筒文?	ミガキ		■1			
70	VG 1e窓食器下部	深鉢・脚部	L・R・筒文 沈線 無文帯(墨消筒文)	ミガキ		■1			
71	MG 5b窓食器下部	突起	突起	ミガキ		■3			
72	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部	L・R・筒文 絶端 すす付雀	ミガキ		■3			
73	VG 1e窓食器下部	深鉢・口縁部	L・R・筒文 口縁に平行に2つの原体注痕	ナデ?		■3			
74	MG 5b窓食器下部	沈鉢・補修部	沈線 補修部 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■3			
75	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部～底部	R・L・筒文 口唇部原体回転 脚部下端・底部彫刻(ケズリ)? 底部木質裏	ナデ		■3	26.8	25.8	9.4
76	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部～脚部下半	R・L・筒文 口唇部原体回転 付近付近すす付雀	ナデ		■3	32.4		
77	MG 5b窓食器下部	深鉢・口縁部～脚部下半	R・L・筒文	ミガキ		■3			
78	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文(絶端筒文) 口唇部原体回転 織維含	ナデ		■3			
79	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 ループ・波状口縁 織維含	ナデ		■8			
80	MG 1c窓食器上部	深鉢・脚部	口唇部原体回転 窓状後口 織維含? 外面ナデ	ナデ		■11			
81	MG 5a窓食器上部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 原体注痕・口唇部遠続する窓目 織維含(少)	ナデ		■9			
82	MG 5d窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文?	ナデ		■1			
83	MG 5e窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 無文	ミガキ		■2			
84	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	L・R・筒文 沈線 波状口縁 口縁部集文帯(ミガキ)口縁部上端記録	ミガキ?		■2			
85	MG 5a窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 無文	ミガキ		■2			
86	MG 5c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 無文	ミガキ		■2			
87	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文?	ミガキ		■2	32.8		
88	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	筒部 沈線 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
89	MG 4c窓食器上部	深鉢・脚部	筒目等 無文帯(ミガキ) 口縁部上端記録	ミガキ		■2			
90	MF 1c窓食器上部	深鉢・脚部	筒目等 沈線 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
91	MG 4b窓食器上部	深鉢・口縁部	R・L・筒文 細目	ミガキ		■2			
92	MG 5d窓食器上部	筒・口縁部	羽状模文R・L・I・R・沈線 刻目	ミガキ		■2			
93	MF 2c窓食器上部	筒・口縁部・脚部	羽状模文R・L・I・R・沈線 刻目帶 無文帯(墨消筒文)	ミガキ		■2	(29.0)		
94	MF 2c窓食器上部	筒・口縁部	羽状模文R・L・I・R・沈線 無文帯(ミガキ)	ミガキ	93と同一個体か	■2			
95	MG 5a窓食器上部	筒・脚部	R・L・筒文?	ミガキ		■2			
96	MF 1c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 沈線 刻目等 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
97	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文?	ミガキ		■2			
98	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 沈線 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
99	MF 2c窓食器上部	深鉢・脚部	R・L・筒文 沈線 口縁部集文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
100	MF 2c窓食器上部	筒?	筒部?	ミガキ?		■2			

番号	出 土 地 点	固 体 - 部 位	原 体 - 文 標 - 肌 土 - 等	内 国	備 号	分類	口徑cm	高さcm	底径cm
101	M F 2c包含縫上部	深鉢・口縁部	波状口縁 無文帯(ミガキ) 口縁部上端肥厚	ミガキ		■2	(27.1)		
102	M G 5a包含縫上部	深鉢・口縁部	波状口縁 無文帯(ミガキ)	ミガキ		■2			
103	M F 2c包含縫上部	深鉢・胸部	周文 沈鉢	ナデ		■2			
104	M F 3d包含縫上部	茎・胸部	口文? 沈鉢	ナデ		■2			
105	M G 5a包含縫上部	束(注口付)・胸部	沈鉢 無文帯(ミガキ)	ナデ		■2			
106	M F 2c包含縫上部	茎(注口付)・胸部	沈鉢 無文帯(ミガキ)	ナデ		■2			
107	M F 2c包含縫上部	深鉢・口縁部	[口]周文 沈鉢 口縁部上端肥厚 無文帯(無消済文)	ミガキ		■2			
108	M F 2c包含縫上部	深鉢・胸部	L口周文 沈鉢 無文帯(無消済文)	ナデ		■2			
109	M F 3c包含縫上部	深鉢・胸部	L口周文? 沈鉢	ミガキ		■2			
110	M F 3c包含縫上部	深鉢・胸部	原体不明 沈鉢	ナデ		■2			
111	M G 4c包含縫上部	深鉢?・胸部?	羽状大文L・LR 沈鉢	ナデ		■2			
112	M G 5a包含縫上部	深鉢?・胸部?	L口周文 沈鉢 無文帯(無消済文)	ミガキ		■2			
113	M G 5a包含縫上部	深鉢?・胸部?	L口周文 沈鉢 無文帯(無消済文)	ミガキ		■2			
114	M F 2c包含縫上部	深鉢・胸部	L口周文 沈鉢 無文帯(無消済文)	ミガキ		■2			
115	M G 5a包含縫上部	不明	沈鉢 無文ミガキ	ミガキ		■2			
116	M F 2c包含縫上部	台付	沈鉢 外面ミガキ			■3			(4.4)
117	M F 2c包含縫上部	台付	L口周文 外面ミガキ	ナデ?		■3			4.6
118	M G 5d包含縫上部	台付	外面ミガキ			■3			
119	M F 1c包含縫上部	深鉢・口縁部~底部	L口周文 口部原体回転 底部代産	ミガキ		■3	21.9	24.8	7.6
120	M G 5c包含縫上部	深鉢・口縁部~底部	外面無文 ケズリ・ミガキ 底部代産	ケズリ・ナデ		■3		20.3	9.6
121	M G 4c包含縫上部	深鉢・胸部~底部	L口周文 胸部?・茎?・底部に腰棱(ケズリ) 肩土(底) 感性的にすす付箋	ケズリ	1号往届状況土上位	■3			13.2
122	M F 2c包含縫上部	深鉢・口縁部~胸部	0段多条	ミガキ		■3			(57.2)
123	M G 4c包含縫上部	深鉢・口縁部~胸部	0段多条 外面すす付箋	ミガキ		■3			(44.8)
124	M G 5a包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 補修孔 外面すす付箋	ナデ		■3			(39.4)
125	M G 5c包含縫上部	鉢・口縁部~底部	L口周文 胸部下端・底部調整(ケズリ)?	ミガキ		■3			
126	M F 3d包含縫上部	鉢・口縁部~底部	外面ミガキ	ナデ		■3			
127	M F 3c包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文? 口部原体回転	ケズリ		■3			
128	M F 3c包含縫上部	深鉢・口縁部	無文	ナデ		■3			
129	M G 5a包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文? 沈鉢 無消済無文帯(ミガキ)	ミガキ		■3			
130	M F 3c包含縫上部	深鉢・口縁部	周文 沈鉢 口部無地無文帯(ミガキ) すす付箋 口縁部にぼぼい	ミガキ		■3			
131	M G 4d包含縫上部	深鉢・口縁部	周文L口 斜り返し口縁 肩土(底)	ケズリ		■3			
132	M F 2c包含縫上部	深鉢・口縁部	山形文 沈鉢 刺突	ミガキ?		■3			
133	M G 5d包含縫上部	深鉢・胸部~底部	口文? 無文帯(ミガキ) 底部ケズリ?	ミガキ		■4			
134	M G 5d包含縫上部	深鉢・胸部~底部	L口周文? 前代産	ナデ	底部・胸部下端すす付箋	■4			5.3
135	M F 2c包含縫上部	底部	L口周文 底部ケズリ	ナデ		■4			(14.0)
136	M F 3c包含縫上部	深鉢・胸部~底部	L口周文? 体部下端・底部に胸突	ナデ		■4			
137	M F 2c包含縫上部	底部	L口周文? 沈鉢	ナデ		■4			
138	M G 5c包含縫上部	底部	前代産			■4			
139	M F 3d包含縫上部	底部	前代産			■4			
140	M G 4d包含縫上部	底部	前代産			■4			
141	M F 3c包含縫上部	深鉢・口縁部	北緯 口部原体圧痕か 交叉刺突	ナデ		N			
142	V G 1c包含縫上部	深鉢・胸部	沈鉢・周文	ナデ		N			
143	M G 5d包含縫上部	茎・口縁部	沈鉢・刺突	ナデ		N			
144	M G 1c包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 沈鉢 陶記捺に刺突 口部原体回転	ナデ		N			
145	M G 4d包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 沈鉢 刺突	ナデ		N			
146	M G 4d包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 線縞文 口唇に刺	ナデ		N			
147	M G 4c包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 折り返し口縁	ミガキ		N			
148	M F 3d包含縫上部	深鉢・口縁部	L口周文 陶原体圧痕	ナデ		N			
149	V G 1c包含縫上部	茎?	口部原体	ナデ		N			
150	V G 1c包含縫上部	深鉢・胸部	L口周文 肩土(底) 石け(多)	ナデ		N			
151	M G 1bII型	深鉢・口縁部	陶記捺 内外面朱色 口縁部に刻	朱痕		I			

番号	出 土 地 点	器 物・部 位	原 体・文 横・施 土・等	内 面	備 考	分類	口径cm	高さcm	底径cm
152	不明	深鉢・口縁部	L口縁文? 口縁部原体柱状 織維含(少)		ナデ	■3?			
153	NG10層	深鉢・口縁部	波裏文・L口縁文 口縁部原体柱状 織維含(少)	織文		■1			
154	NF5c・5d1層	深鉢・口縁部	L口縁文 口縁部原体柱状 織維含			■7			
155	NG1a1層	深鉢・脚部下半	L口縁文 織維含(多) 斜面尖底		ナデ	■3			
156	NG1a1層	深鉢・脚部	R.L口縁文 織縫文? 織維含(少)		ナデ	■3			
157	NG1b1層	深鉢・脚部	表面織文 L口縁文 織維含 内面すす付累	織文		■1			
158	NG1b1層	深鉢・脚部	L.R口縁文 織維含		ナデ	■3			
159	NG1b1層	深鉢・口縁部	L.R口縁文 平行沈線 並縫 織文帯(ミガキ)		ミガキ	■2			
160	NG5e1層	深鉢・口縁部	L.R口縁文 沈線 波状口縁		ミガキ	■2			
161	NG5e1層	深鉢・口縁部	L.R口縁文 沈線 突起 波状口縁		ミガキ	■2			
162	NF5c・5d1層	深鉢・脚部	L.R口縁文 沈線 織縫文		ナデ	■2			
163	NF5c・5d1層	深鉢	L.R口縁文 沈線 新井列		ミガキ	■2			
164	NG1b1層	底?・脚部~底部?	L.R口縁文 沈線 赤色顔料付浴		ナデ	■2			
165	NG5e1層	唇・口縫部~肩部	原体付引 斜縫 無文帯(磨擦痕文) 口縫部小突起		ナデ	■2			
166	NG3c1層	深鉢・口縁部	地子付沈線 口縫部上端肥厚		ミガキ	■3			
167	不明	突起	沈縫・突起列			■2			
168	NF5c・5d1層	底部	網代灰			■4			
169	NF1e1層	底部	網代灰			■4			
170	NF1e1層	底部	網代灰			■4			
171	NF1e1層	スタンプ形土製品	スタンプ形土製品孔・沈縫			■5			
172	不明	高杯?・土偶足?	外面ナデ			■5			
173	NG5e1層	深鉢・口縁部	折り返し口縫 脱土(粘)石合(多)		ナデ	N			
174	NG5e1層	盤・脚部	筒文 沈縫		ナデ	N			
175	NG5e1層	亞?・肩部?	L.R口縁文 沈縫		ナデ	N			
176	NG5e1層	盤・脚部	沈縫 脱土(粘)石合		ナデ	N			
177	NF5c・5d1層	盤・口縫部	口唇部斜傾状直底 無文帶		ナデ	N			
178	NG1c1層	亞?・口縫部	R.L口縁文		ナデ	N			
179	NG5e1層	亞?・頭部?	L.R口縁文 沈縫		ナデ	N			
180	NG5e1層	底部	外縁クズリ 脱土(粘)石合 173と脱土が似ている		ナデ	N			

中和田遺跡遺物観察表（石器）

番号	出 土 地 点	器 物	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重 量	石 質
1	1 号 住 墓 土 床 面	網 片	(2.8)	(2.3)	0.8	6.1	頁 岩
2	1 号 住 P P 4 墓 土 内	石 砕	(2.65)	4.5	0.6	7.9	頁 岩
3	2 号 住 墓 土 床 面	石 砕	3.0	1.5	0.3	1.1	頁 岩
4	2 号 住 墓 土 下 位	石 砕	5.65	3.45	0.9	15.3	頁 岩
5	3 号 土 坑 墓 土 中 位	石 砕	5.6	2.1	0.8	7.5	頁 岩
6	3 号 土 坑 墓 土 中 位	石 砕	3.4	(4.55)	0.4	5.3	頁 岩
7	3 号 土 坑 墓 土 下 位	石 砕	(6.0)	2.45	1.1	11.7	頁 岩
8	3 号 土 坑 墓 土 下 位	尖 砕	4.5	3.1	0.75	10.4	頁 岩
9	1 号 溝 墓 土 ベルト 中 位	石 砕	2.6	1.6	0.5	1.5	頁 岩
10	N G 5 a 道 物 包 含 屋 上 位	石 砕	2.1	2.85	1.0	6.5	頁 岩
11	N F 2 c 道 物 包 含 屋 上 位	石 砕	3.2	2.4	4.0	2.7	頁 岩
12	N G 4 d 道 物 包 含 屋 上 位	磨 石	10.15	6.9	3.8	408.5	砂 岩
13	N G 5 e I 破	石 砕	(2.9)	1.4	0.5	1.3	頁 岩
14	N G 5 e I 破	石 砕	2.85	1.5	0.5	1.5	赤色頁岩
15	N G 4 c II 破	石 砕	3.7	2.45	0.7	4.0	頁 岩

VII. ま と め

今回の調査で検出された遺構は堅穴住居跡1棟・住居状遺構1棟・土坑4基・陥し穴状遺構3基・溝跡一束・柱穴状ビット8基確認された。出土遺物については、大コンテナ約6(42cm×32cm×30cm)箱出土した。うち約4箱は、遺物包含層からの出土である。以下堅穴住居跡・住居状遺構・遺物包含層・遺物について若干触れてまとめとしたい。

1. 堅穴住居跡

本遺跡で1棟のみの検出であった。床面から繊維を含む組織繩文等が施されている土器が出土したことから、繩文時代前期初葉～前葉の堅穴住居跡と判断した。前章でも述べたとおり、壁高は10～25cm程で、出入り口等を確認するに至らなかった。住居内で検出されたビットも柱穴痕が認められず、また、配置も規則性がない。床面についても平坦ではなく、北から南にやや傾斜し、貼り床も施されてはいない。炉については地床炉と思われるが、焼土の焼成は良好とは言えなかった。長期間にわたって堅穴住居跡に居住していたのではなく、仮設的な堅穴住居跡と思われる。

当堅穴住居跡の時期に該当する県内の堅穴住居跡の検出例は、水沢市駒上遺跡・矢巾町大渡野遺跡・滝沢村湯舟沢遺跡・仏沢田遺跡・紫波町宮手遺跡・宮古市千鶴遺跡があげられ、調査例が少ないとから、貴重な資料と言える。

1棟のみの検出で遺構の性格を明確に把握するに至らなかったが、本遺跡から南東へ約1.2kmに位置する小松I・II遺跡（平成13年度報告予定・当センター発掘調査）で該期する堅穴住居跡8棟が確認された。本遺跡の堅穴住居跡が小松I・II遺跡の発掘調査の成果と結び付けられ、遺構の性格・地域的な特徴を見いだせる資料になれば幸いである。

2. 住居状遺構

出土遺物は、埋土上位から中位にかけては、弥生時代中期・繩文時代後期前葉～中葉の土器が出土し、埋土中位～下位にかけては、繩文時代早期末葉～前期前葉の土器が出土する傾向がある。

遺構の性格については、炉跡・柱穴・土坑等が確認されず、また床面に貼り床等を施された跡は確認されなかったため、詳細については不明である。

自然地形の窪地もしくは、繩文時代早期末葉～前期前葉の堅穴住居跡の可能性も考えられるだろう。

3. 遺物包含層

繩文時代早期末～前期前葉・後期前葉～後期中葉・弥生時代後期の土器が大コンテナで約4箱出土した。包含層の性格については、旧河道の可能性が考えられる。包含層の形成された時期については、包含層下層で繩文時代早期末～前期前葉・後期前葉～後期中葉土器が出土している。同層位で時代が異なる土器が出土しているため、明確な時代時期を判断する事はできなかったが、包含層の形成された時期は、繩文時代後期前葉以降に形成されたものと推測される。

4. 遺物

土器

本遺跡から出土した土器は遺構内外・遺物包含層を含め、大コンテナで約6箱の土器が出土した。繩文時代早期末～前期前葉の土器が大コンテナ約1箱分、繩文時代後期前葉～後期中葉の土器が大コンテナ約4.7箱分、弥生時代中期～後期の土器が大コンテナ約0.3箱出土した。繩文時代後期前葉～中葉・弥生時代中期～

後期の遺構は確認できなかったが、本遺跡周辺に出土した土器と相当する年代の遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

石器

本遺跡から出土した石器は遺構内外・遺物包含層を含め、58点出土した。石器の石材はほとんどが頁岩である。定型石器としては、石鎌・石匙・尖頭器・石錐・磨石が出土した。石器の時代時期については、遺構内から出土した遺物番号1～8の石器は遺構の時代と考え合わせて縄文時代前期初頭～前葉と考えられるだろう。

5. おわりに

住田町内の過去の発掘調査事例は、昭和39年（1964）の蛇王洞遺跡・昭和46年（1971）の湧清水洞穴遺跡・平成2年（1990）の川向遺跡、そして平成6～8年（1995～1998）に行った小松洞穴の調査に統いて本遺跡が5例目となった。岩手県内の市町村と比較して発掘調査事例が少ない当地域において、今回の発掘調査の結果により遺跡の性格の一端を明らかに出来た事は、貴重な資料と言えるだろう。

平成12年度調査で、小松Ⅰ・Ⅱ遺跡において、縄文時代前期初頭の集落跡を確認している。小松Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査と本遺跡の成果が結び付けられ、本遺跡及び当地域における遺跡・遺構・遺物の性格が明らかになれば幸いである。

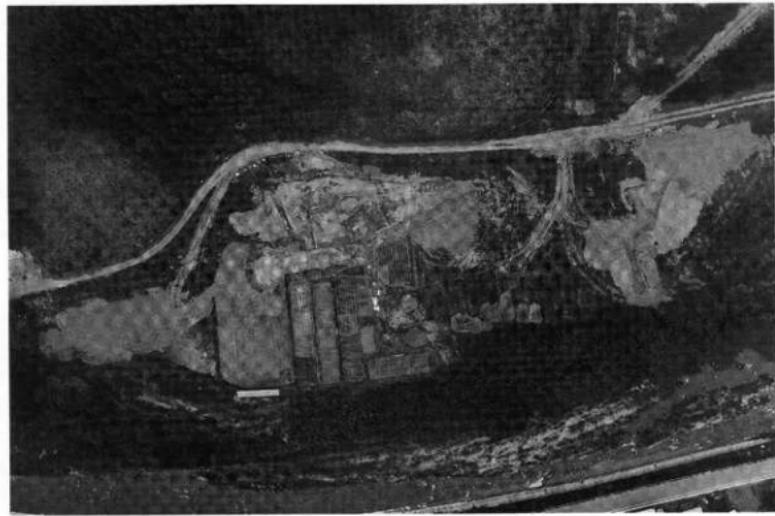
〈参考引用文献〉

- | | |
|---------------------------|--|
| 高橋 信雄・小田野 哲憲・熊谷 常正 (1982) | 『岩手の土器』岩手県立博物館 |
| 小田野 哲憲 (1987) | 「岩手の弥生土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告』5 |
| 小林 達雄・小川 忠博 (1989) | 『縄文土器大観』第4巻 小学館 |
| 宮古市教育委員会 (1989) | 『千鶴遺跡』 |
| (財)岩 墓 文 (1993) | 『新山権現社発掘調査報告書』第188集 |
| (財)岩 墓 文 (1997) | 『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』第250集 |
| (財)岩 墓 文 (2000) | 『日の出町Ⅰ遺跡発掘調査報告書』第315集 |
| 高橋 亜貴子 (1992) | 「東北地方縄文時代前期前葉組繩文縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』 |

写 真 図 版

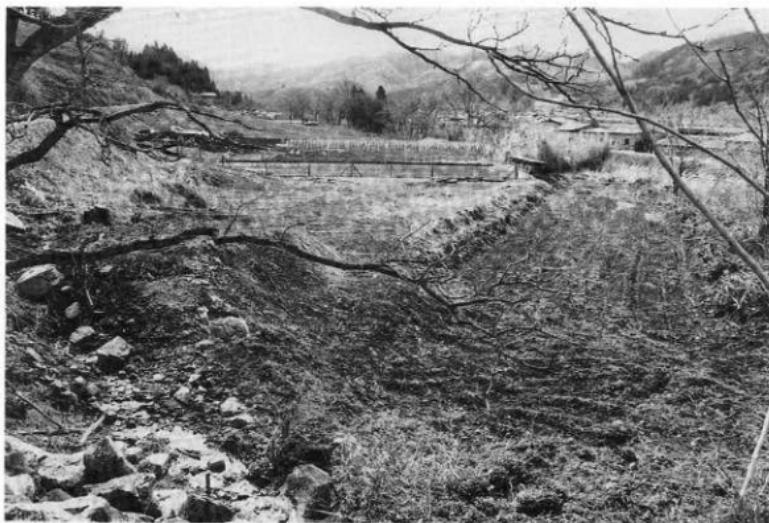


空中写真遺跡遠景（南から）

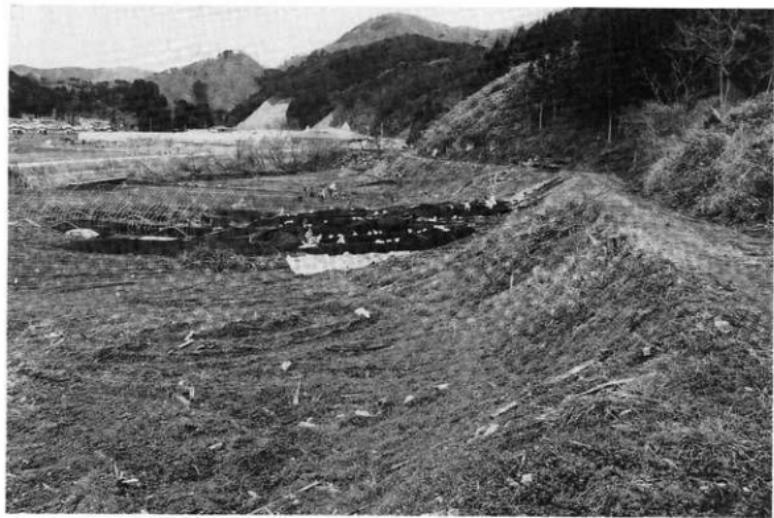


空中写真遺跡遠景（真上から）

写真図版1 空中写真



調査前風景（西から）

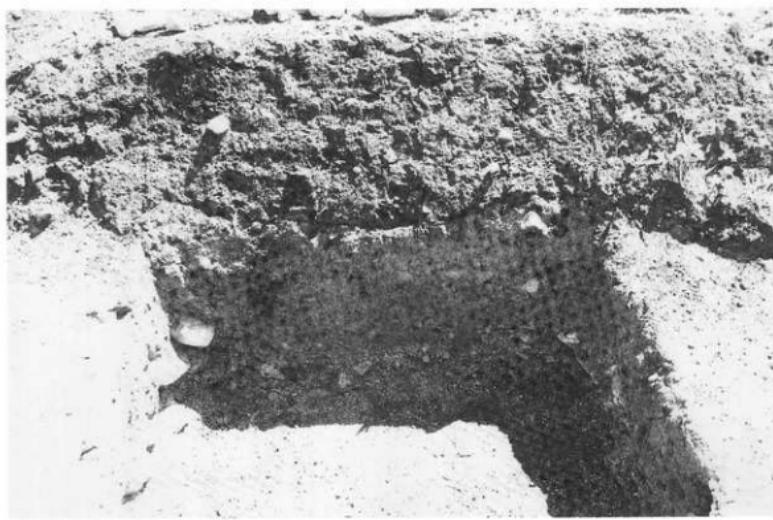


調査前風景（東から）

写真図版 2 調査前風景



基本土層A

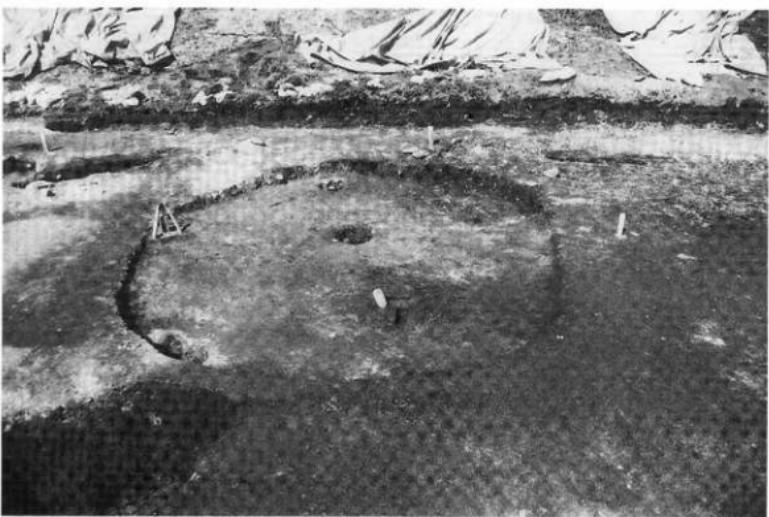


基本土層B

写真図版3 基本土層

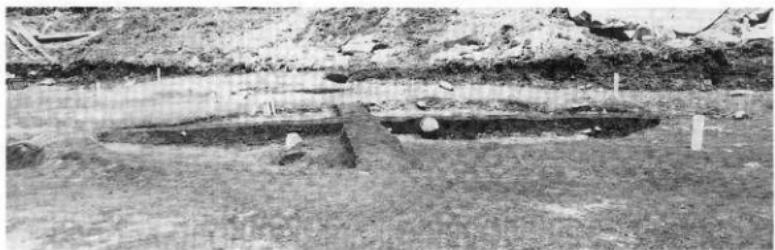


1号竪穴住居跡（西から）



1号竪穴住居跡（南から）

写真図版4 1号竪穴住居跡(1)



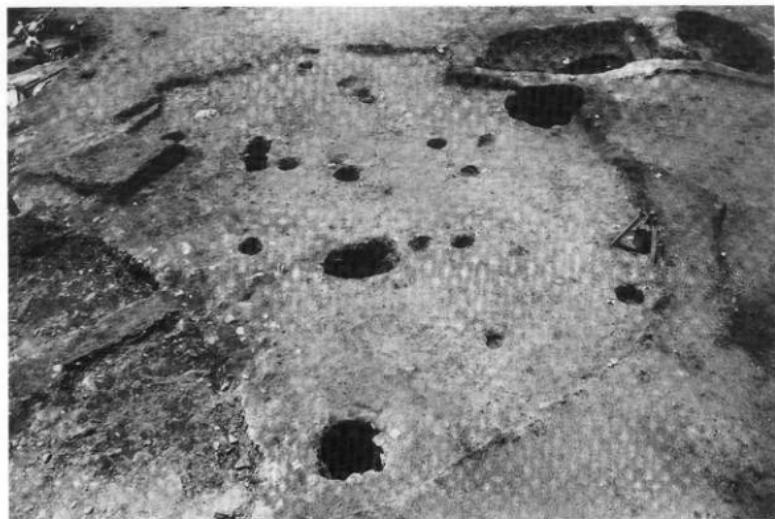
1号竪穴住居跡 断面（南東から）



炉（真上から）

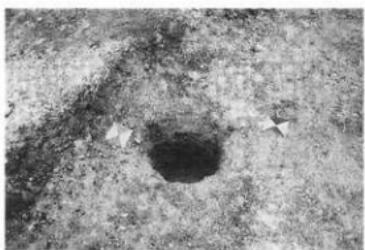


炉 断面（南から）

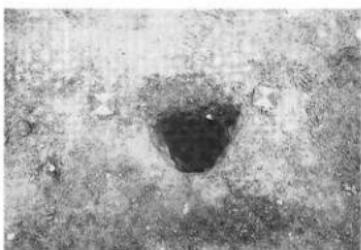


1号竪穴住居跡 PP完掘（北西から）

写真図版 5 1号竪穴住居跡(2)



1号住PP 断面 I-I'



1号住PP 断面 G-G'

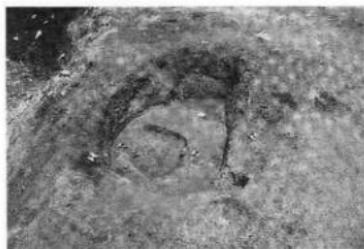


1号住居状 平面（西から）



1号住居状 断面（南から）

写真図版 6 1号竪穴住居跡(3)・1号住居状遺構



1号土坑 完掘（南から）



1号土坑 断面（南から）



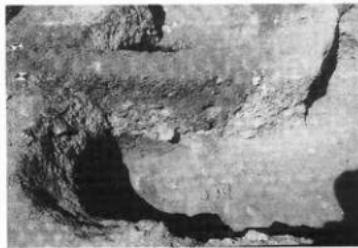
2号土坑 完掘（南から）



2号土坑 断面（南から）



3・4号土坑 完掘（西から）



3・4号土坑断面（西から）

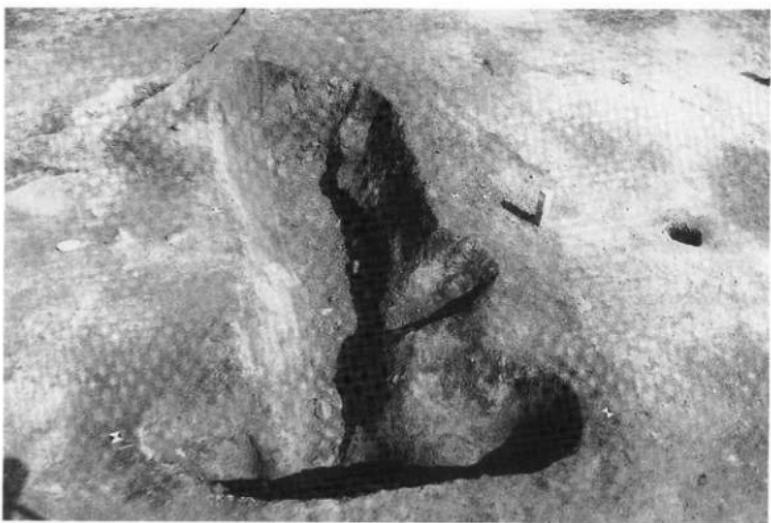


1号陷し穴状遺構 断面（北西から）



2号陷し穴状遺構 断面（西から）

写真図版7 土坑・陷し穴状遺構(1)



1・2号陥し穴状遺構 完掘（西から）



1・2・3号陥し穴状遺構（東から）

写真図版 8 陥し穴状遺構(2)

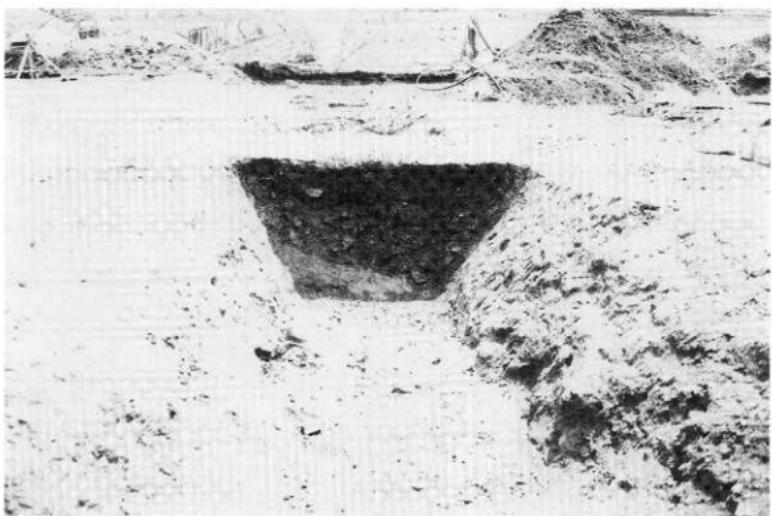


柱穴状ピット群（北から）



住居・土坑・陥し穴状遺構（北西から）

写真図版 9 柱穴状ピット・遺跡全景

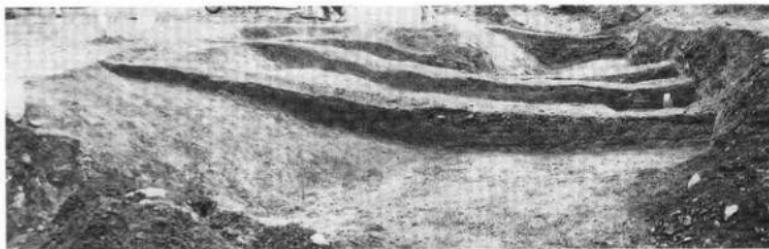


1号溝跡 断面（北から）



1号溝跡 完掘（北から）

写真図版10 1号 溝



遺物包含層 断面 A-A'



遺物包含層 断面 B-B'



遺物包含層 断面 C-C'

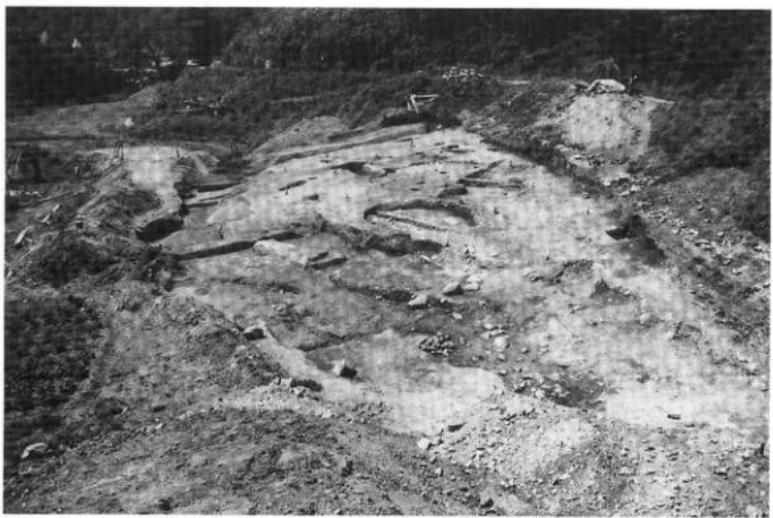


遺物包含層 断面 D-D'

写真図版11 遺物包含層 断面



遺物包含層・竪穴住居跡・土坑・柱穴状ピット遠景（西から）

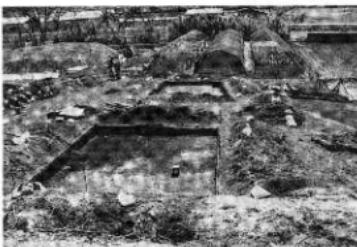


遺物包含層・竪穴住居跡・土坑・柱穴状ピット遠景（東から）

写真図版12 遺跡遺構群



作業風景



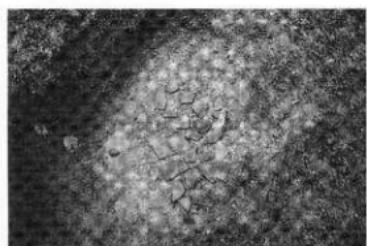
作業風景



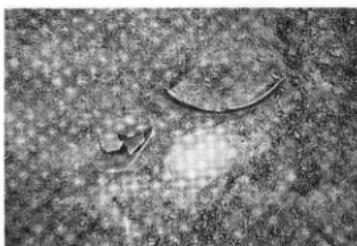
作業風景



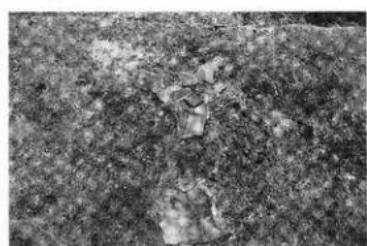
作業風景



遺物出土状況



遺物出土状況

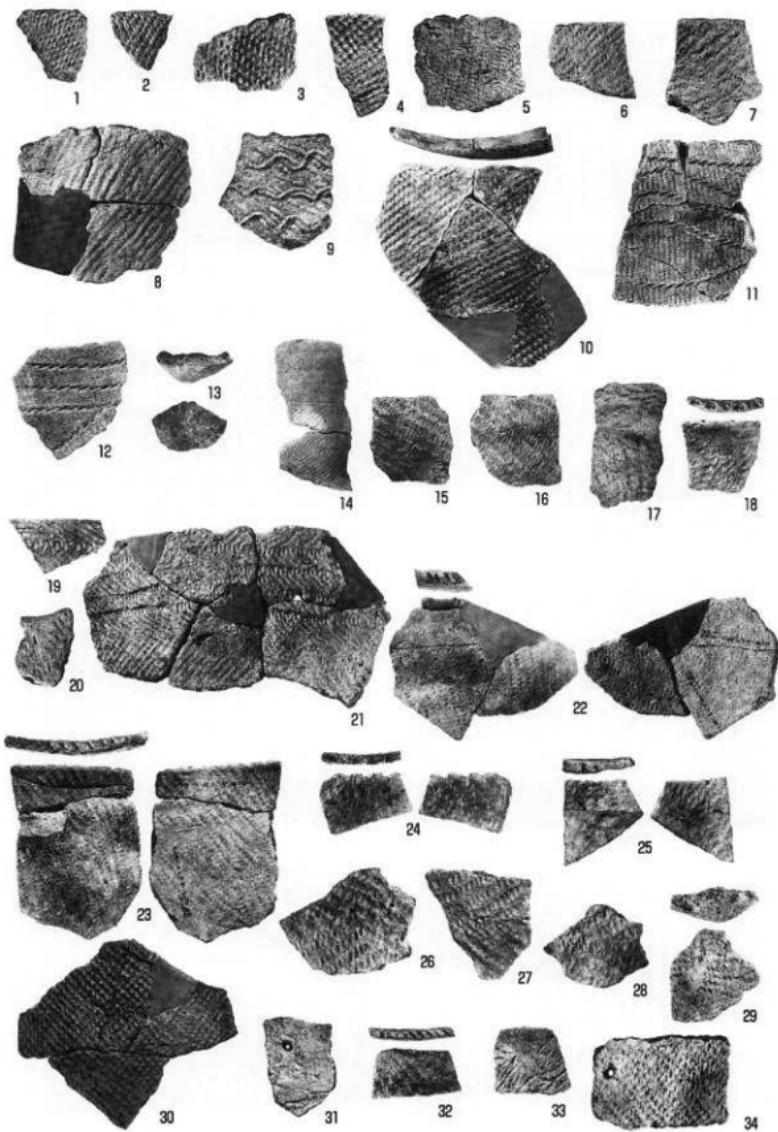


遺物出土状況

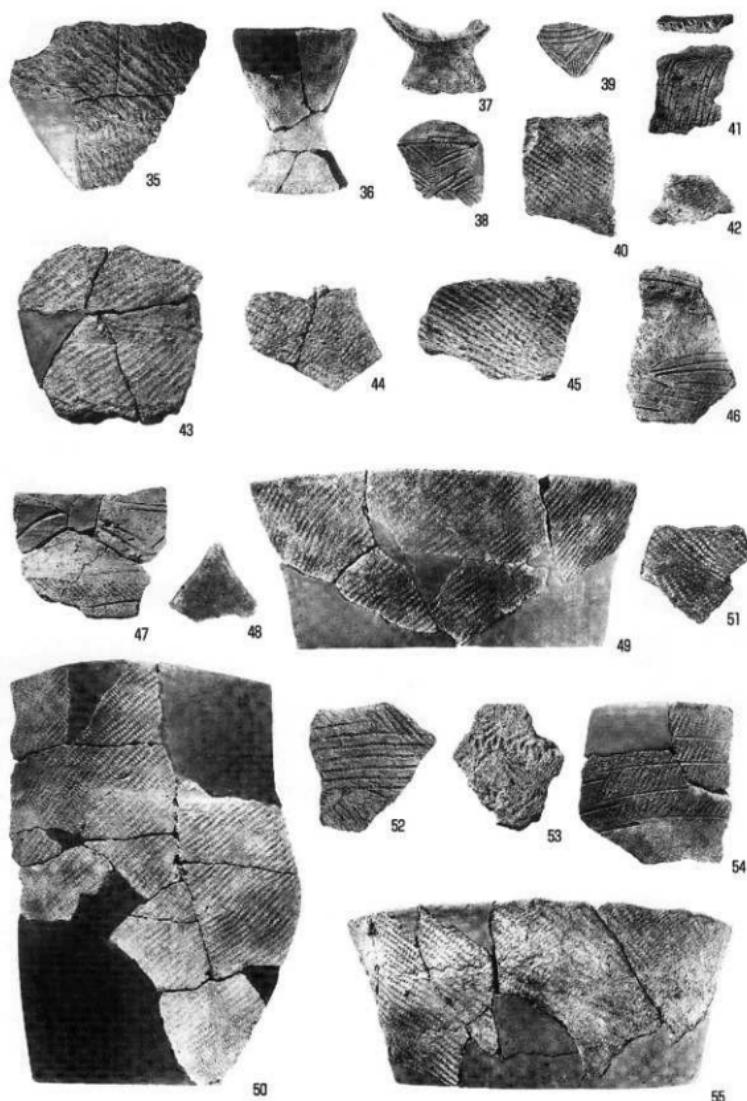


遺物出土状況

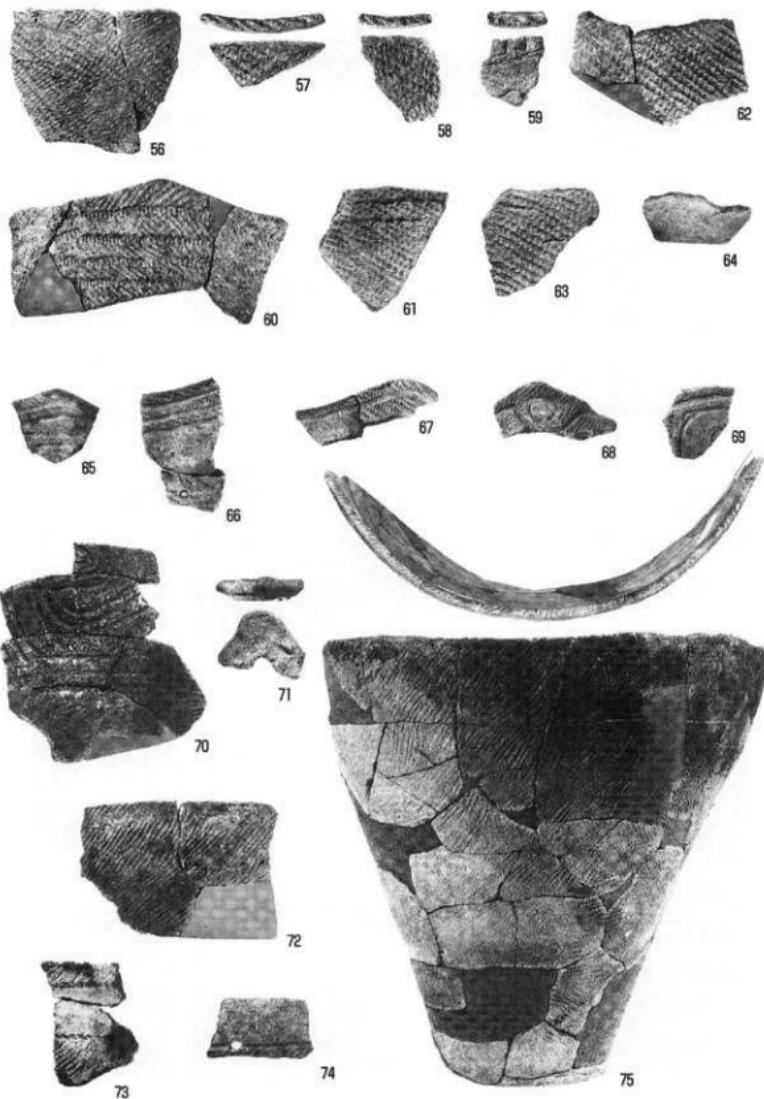
写真図版13 作業風景・遺物出土状況



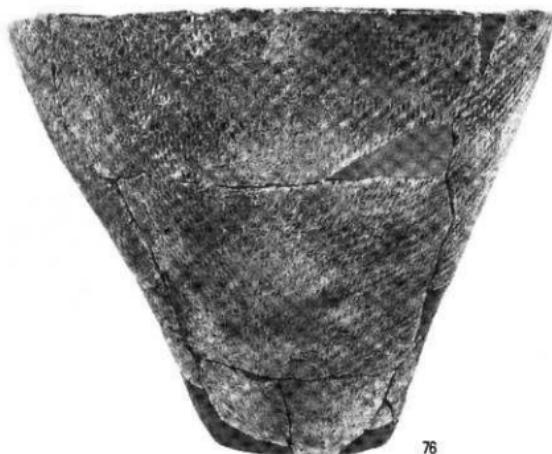
写真図版14 遺構内出土土器(1)



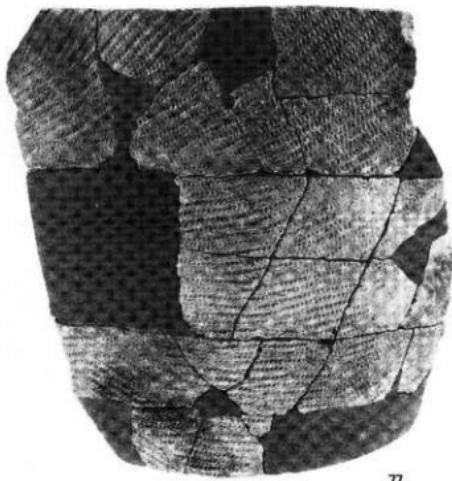
写真図版15 遺構内出土土器(2)・遺物包含層出土土器(1)



写真図版16 遺物包含層出土土器(2)

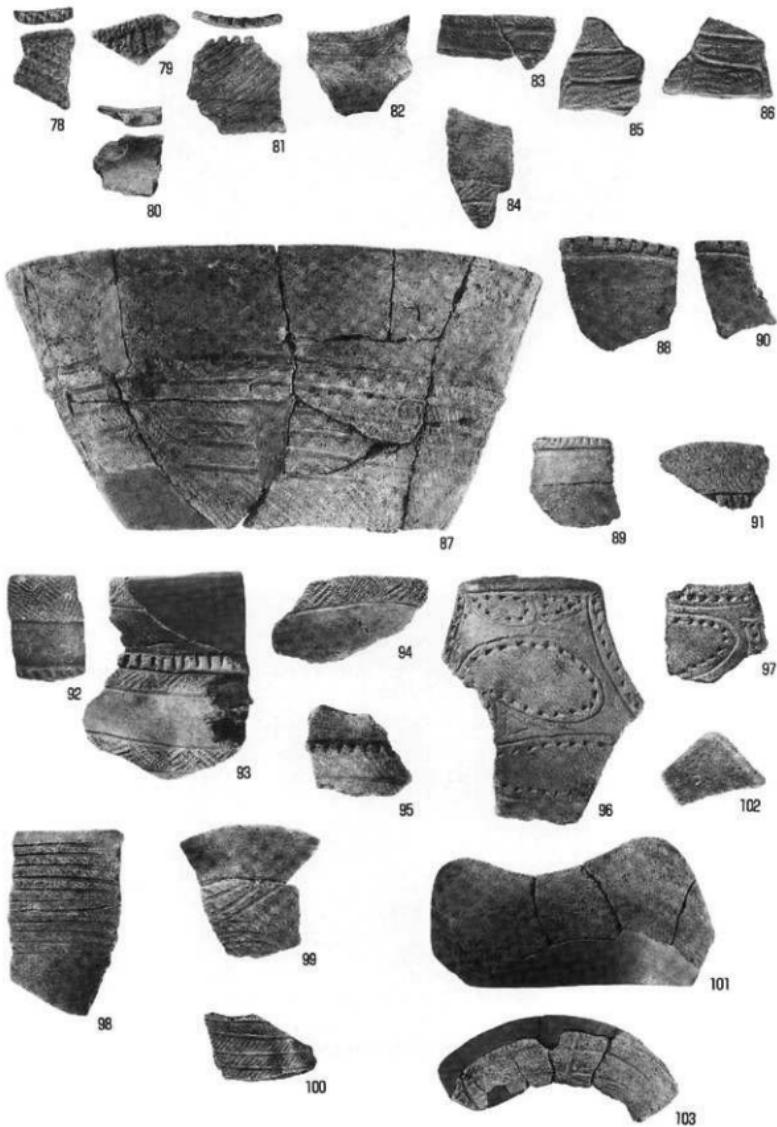


76

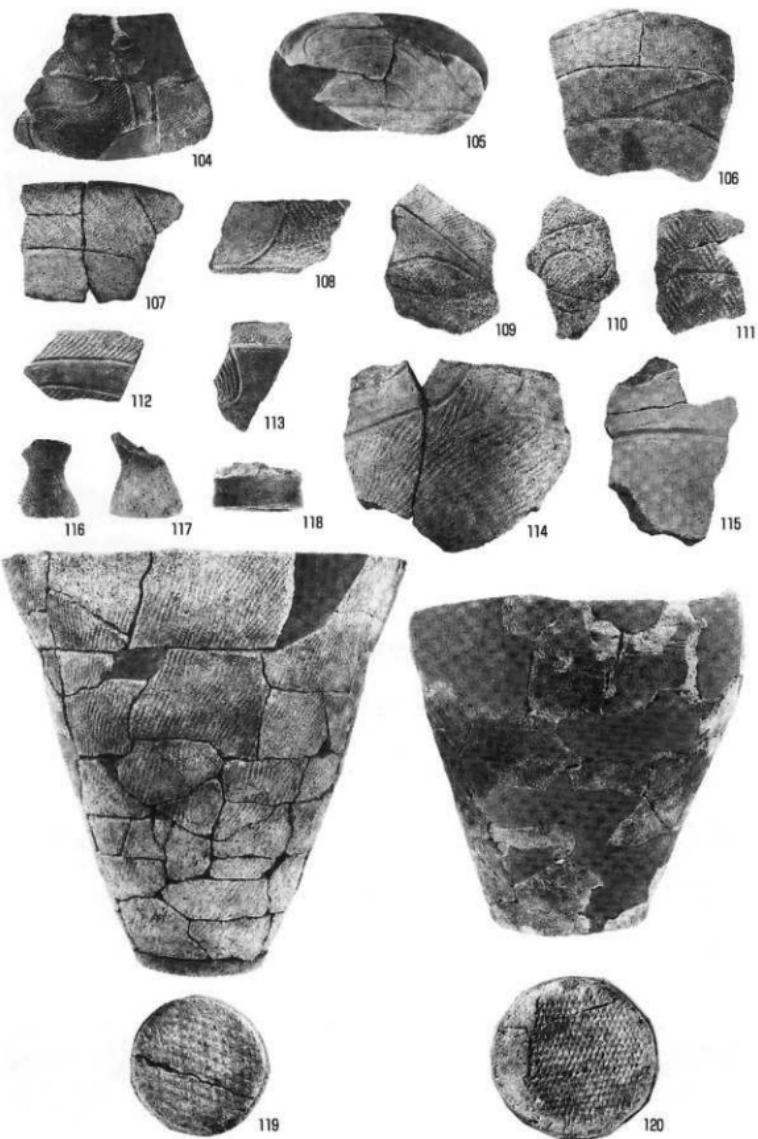


77

写真図版17 遺物包含層出土土器(3)



写真図版18 遺物包含層出土土器(4)



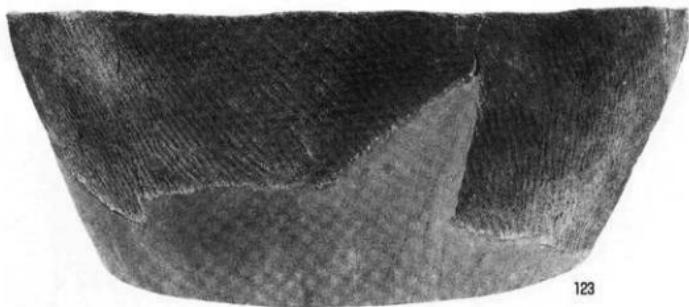
写真図版19 遺物包含層出土土器(5)



121



122



123



124



125



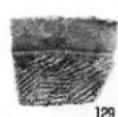
126



127



128

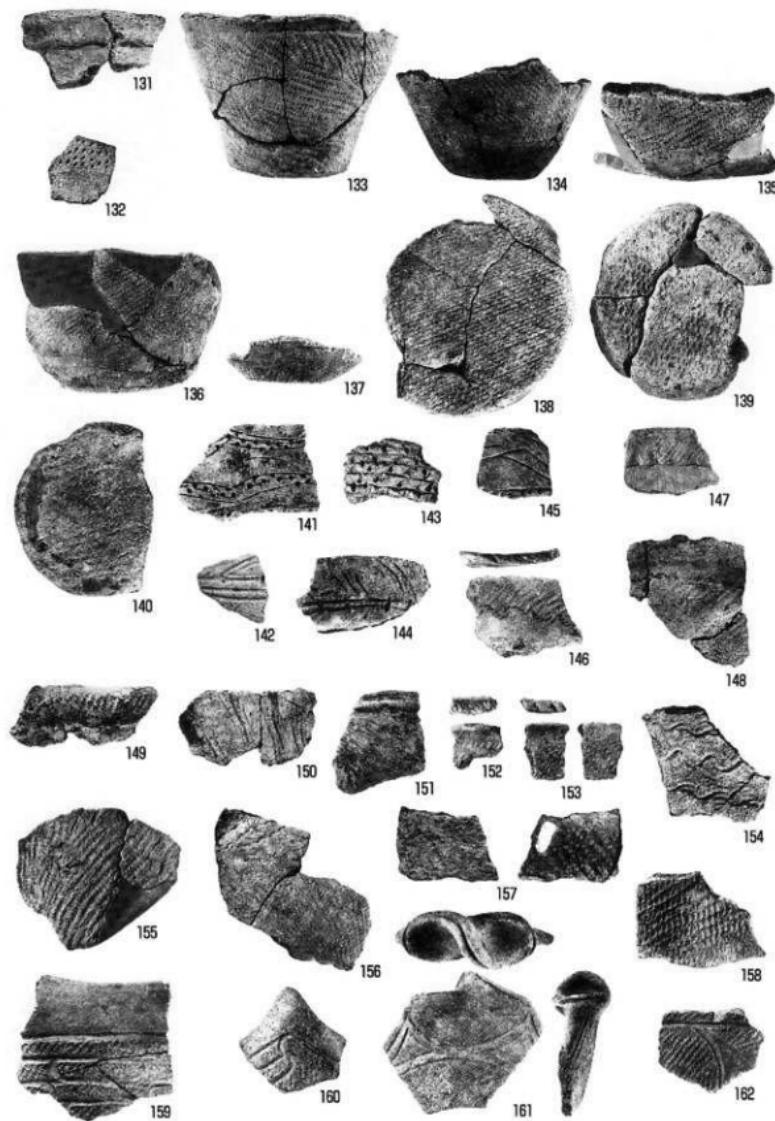


129

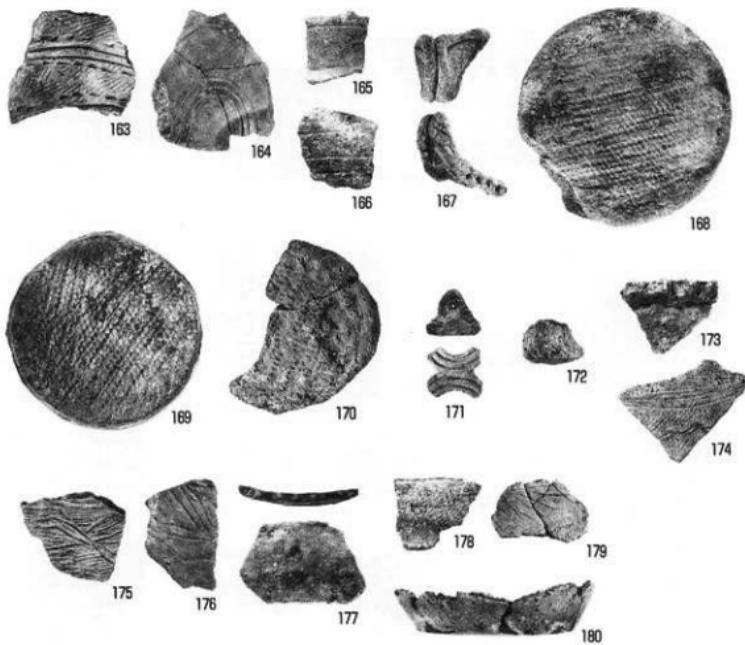


130

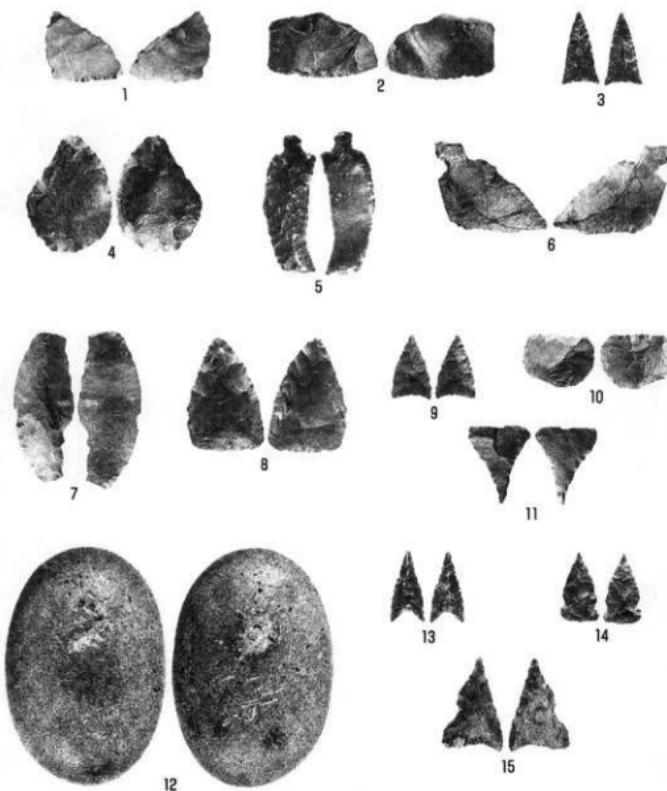
写真図版20 遺物包含層出土土器(6)



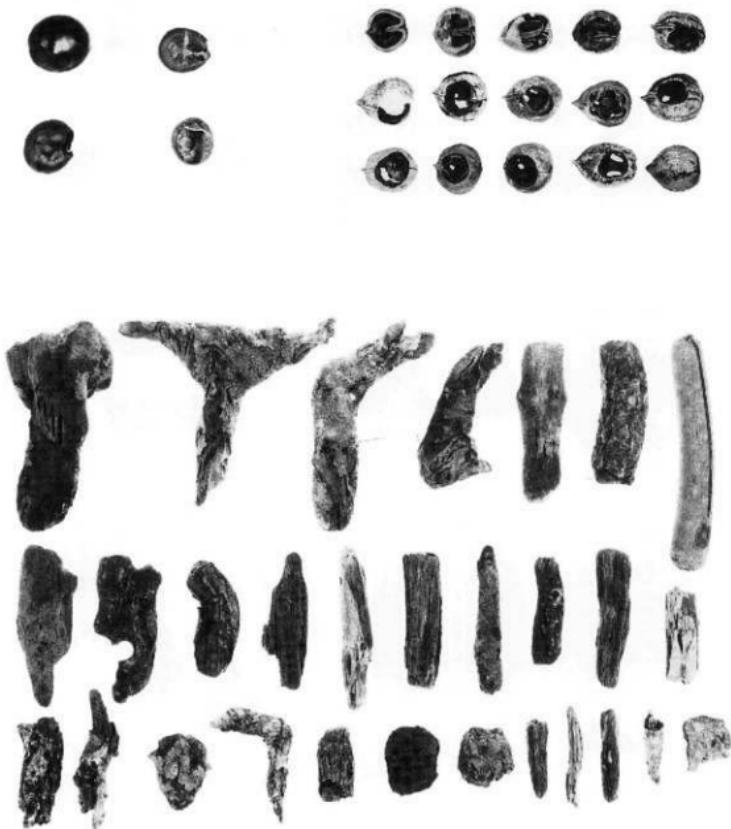
写真図版21 遺物包含層出土土器(7)・遺構外出土器(1)



写真図版22 遺構外出土土器(2)・土製品



写真図版23 石 器



写真図版24 遺物包含層下層出土・クルミ・核の実・木片

報告書抄録

ふりがな	なかわだいせきはつくつちうさほうこくしょ						
書名	中和田遺跡発掘調査報告書						
副書名	一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に伴う緊急発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第355集						
編著者名	菊池貴広						
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185番地 TEL 019-638-9001・9002						
発行年月日	西暦2001年3月27日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○○○	東経 ○○○	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中和田遺跡	岩手県気仙郡 住田町上に有住 中和田2番地 ほか	03441	MF-96-2268	39度 11分 26秒	141度 36分 22秒	1999.4.15 1 1999.6.15	2,521m ²	一般県道釜 石住田線交 流ネットワ ーク道路整 備事業に伴 う緊急発掘 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中和田遺跡		縄文時代	竪穴住居跡1棟 住居状遺構1棟 土坑類5基 溝跡1条 柱穴状ピット8基	縄文土器(早末～前 期前葉・後期前～中) 弥生土器(中・後) 石器(石鎚・石斧・ 石錐等) クルミ・核の実	縄文時代前期初頭 ～前葉の住居 縄文時代前期・後 期の遺物包含層

財團法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

【職員】

所長

伊藤民也

副所長

櫻田次男

【管理課】

管理課長

川浪清徳

嘱託

千葉芳夫子

管理課長補佐

山崎善光

島恵トヨ重

主査

立花多加志

新田ヨウ

主事

日影睦男

佐々木光重

【調査第一課】

調査第一課長

佐々木勝文

高橋與右衛門

調査第一課長補佐

佐々木清透

中川重紀

主任文化財専門調査員

小山内登

義介

文化財専門調査員

赤石一郎

知子

◆

吉田充進

迪孝

◆

小原眞一郎

身澄

◆

小笠原健一郎

幸徹

◆

金野進人

穂計

◆

鳥居達彦

悟宏

◆

金子昭彦

夫見彦

◆

東海林淳

由紀夫

◆

阿部勝則

彦正彦

◆

羽柴直人

一津彦

◆

小野寺靖

武彦

◆

菅原克

太郎

◆

長村浩二郎

美之

◆

滝浦廣拓

聰

◆

菊池貴一郎

(12月退職)

◆

村上準一郎

徹

◆

本多忠昭

和熙

◆

北村忠治

和美

◆

丸山浩

和雅

◆

村木敬

</div>

期限付専門職員

小林弘

木川

◆

江藤教卓

徹

◆

藤原賢德

和熙

◆

菊池賢

和美

◆

井上信介

津子

◆

川又晋

紀子

◆

吉田真由美

原弘征

◆

北田博義

(11月退職)

【調査第二課】

調査第二課長

高橋與右衛門

調査第二課長補佐

中川重紀

主任文化財専門調査員

高橋義介

文化財専門調査員

中田道貞

◆

藤谷良芳

◆

阿松

◆

藤田潤

◆

坂前岩

◆

早瀬安

◆

藤安

◆

木千佐

◆

葉武

◆

澤昭太郎

◆

杉半

◆

澤昭太郎

◆

木中

◆

里星

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第355集

中和田遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線交流ネットワーク道路整備事業に伴う緊急発掘調査

印 刷 平成13年3月22日

発 行 平成13年3月27日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電 話 (019)638-9001・9002

F A X (019)638-8563

印 刷 大場印刷工業株式会社

〒020-0062 盛岡市長田町14番31号

電 話 (019)623-3228